



♥ 35 K 👤 12 K



♥ 77 K 👤 45 K



♥ 22 K 👤 10 K



Future Risks Report

フューチャーリスクレポート 2024年版

目次

はじめに
(トーマス・ブベル) → 3
エグゼクティブ・サマリー → 4

1-トップリスク → 9

2024年の上位リスクは? → 10
フューチャーリスクトップ10
順位の推移 → 11
新しい適応能力が重要 → 12
専門家と一般市民の違いは? → 14
世界的なリスクには世界的な
解決策が必要 → 15
リスク認識は地域によって
どう異なるか? → 17
技術の進歩は、私たちのアプローチを
最適化する機会である → 18

2-人口構造の変化と気候変動 双方に取り組むためには 大胆な発想が必要 → 19

複合危機（ポリクライシス）の時代、
気候変動の将来コストを予測すること
は困難 → 20

高齢化に伴うコストが
気候変動への対策に必要な資源を圧迫 → 21

保険業界は気候変動に対応する移行を
実現するために新たなリスクをカバー
する必要がある → 22

気候変動の緩和への投資は
健康向上にも寄与する → 24

公的機関は気候変動と人口構造の変化
に備えているか → 25

3-地政学的不安定性性 社会的緊張と安全保障上の脅威が 新たなリスクの連鎖を形成 → 26

分断された世界は、グローバル企
業に高い機敏性を求めている → 27

専門家と一般市民は共に地政学的
不安定性に懸念を示している → 28

公的機関は社会的緊張の高まりに対する
対応能力への信頼を構築する必要がある → 30

技術革新は新たな安全保障上の脅威を
生み出す → 31

4-AIによる誤情報が 民主主義に対する 新たな脅威に → 32

多くの人は、自分が誤情報を
見抜く能力を過信している → 33

偽情報は、前例のないレベル
にまで達している → 34

誤情報が投票に影響を与え、
選挙結果が覆される可能性がある → 35

人々は政府に、誤情報への対策を
望んでいる → 36

AIは誤情報を加速させるが、
対処する一助にもなり得る → 37

5-フューチャーリスク と予防戦略 → 38

専門家は、
一般市民の意識と当局の準備態勢は
両方改善の余地があると指摘 → 39

保険の可能性が疑問視される現代
では、イノベーションが鍵になる → 41

保険会社の役割 → 42

調査概要 → 43

Foreword from Thomas Buberl

アクサグループ CEO
トーマス・ブベル



「ここに挙げられた将来リスクは、相互に絡み合い、より脅威的なものとなって、場合によってはシステム全体に影響を及ぼすリスクとなります。私たちが自信を持って前に進むためには、これらのリスクへの対応が、そのチャレンジに匹敵するものでなければなりません。」

このたび、11年連続で「アクサフューチャーリスクレポート」を皆さまにお届けできることを光栄に思います。このレポートは、一般市民と業界の専門家が認識する将来のリスクについて、欧州、アメリカ、アフリカ、アジア太平洋と中東の世界4地域から23,000人以上の回答を得て、グローバルな視点からまとめられたものです。このレポートは、長年にわたってすべてのステークホルダーから参照されており、リスクを予測し、予防・低減を目指す取組みに、アクサが真摯に向き合っていることを示す内容となっています。

2024年版は、豊富な見識を提供する洞察に富んでいます。今回もまた、世界を複合危機（ポリクライシス）が覆っていることを基調として示す結果となっています。そのうちいくつかは、過去のものとは異なりますが、新たなトレンドも明らかになりました。専門家が挙げた懸念事項のトップ3は、3年連続で気候変動、地政学的不安定性、サイバーセキュリティでした。また、2023年と同様に、AIがもたらすリスクが僅差で4位に入っています。

さらに、フェイクニュースが他のあらゆるリスクと複雑に絡み合い、新たなリスクとして認識されています。2024年、世界が前例のない選挙イヤーを迎える中、フェイクニュースは成長するデジタルツールやソーシャルメディア、アルゴリズム、そしてAIを通じて瞬時に拡散され、社会的緊張や地政学的不安定性を直接助長する要因として認識されています。

地域的に規制され対策が講じられているとはいえ、私たちの自由を守り、フェイクニュースを排除する適切なバランスを実現するには、国際的な協力が必要です。

レポートは最後に、私たちの日常生活において、地球規模で脆弱性が急激に高まっていることを示すものとなっています。気候変動は今や、私たちを取り巻く環境や家庭、健康に常に影響を及ぼしています。同時に、新しいテクノロジーの急速な進歩それ自体が、私たちの世界の形成にどのように貢献するのだろうか、という懸念を引き起こしています。

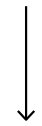
このような脆弱性の高まりを前にして、私たちはそれが運命だと受け身にならないよう意識し、現実的に対処する必要があります。確かに、私たちが暮らす世界をより安全なものにするには、長い道のりが必要であるかもしれませんが、しかし私たちは共に、将来のリスクを緩和する新しい解決策を創出する機会をつかまなければならないのです。

保険会社は、これらの重要な課題に対してグローバルに対応する中核的な役割を担っています。アクサの調査では、専門家の91%と一般市民の72%は、保険会社が今後発生するリスクから人々を守るために重要な役割を果たす必要があると回答しています。そのために、私たちはここに存在するのです。

アクサは、グループが事業を展開する世界のどこにおいても、「すべての人々のより良い未来のために。私たちはみなさんの大切なものを守ります。」という私たちのパーパスを体現すべく弛まぬ努力を続けていきます。

エグゼクティブ・サマリー

4



今年、世界的な複合危機（ポリクライシス）が継続し、深刻化しているため、世界はますます脆弱になっているとの認識が広がっています。「フューチャーリスクレポート2024」は、急速な技術革新や、地政学、セキュリティ、フェイクニュースなどが複雑に絡み合うリスクに象徴される世界において、リスク管理、意思決定、課題への取組みもまた、一層複雑になると指摘しています。また、変化しつづける環境の中で、保険会社がこれらのリスクの予防と軽減に果たす役割についても強調しています。

「フューチャーリスクレポート2024」は、アクサ内部や社外のネットワークから選ばれた専門家、そして世界各地の一般市民を対象に実施した年次調査の結果をまとめたものです。

未来は 私たちの手の中にある

専門家の87%が、世界は5年前よりもリスクに対して脆弱になっていると確信しています。

保険会社は、リスクに対する耐性を支えるために、常に重要な役割を果たしてきました。このレポートでは、には、91%の専門家が、今日出現しつつある新たな種類のリスクから人々を守るため保険会社が果たす役割が重要であることを強調しています。

アクサは、未来は私たちの手の中にあると信じています。脆弱性の高まりに対して、それが運命であると受け身になるべきではなく、潜在的なリスクに対応し、リスクを軽減するために専門性を十分に発揮することが、より重要な私たちの責務になっていると、受け止めています。

- 詳しくはマニフェストをご覧ください：
[「未来がリスクであってはならない」](#)

58 10

主な調査結果 1

世界的な複合危機の影響は、日常生活により顕著に現れつつあります。

過去の「フューチャーリスクレポート」では、人類は複合危機（ポリクライシス）の状況にあることが指摘されました。今年の調査結果は、その印象を強めるものとなりました。

新たな質問として、近年の危機的な状況についての考えを尋ねたところ、専門家の92%、一般市民の90%が「危機の数が増加している」と回答しました。同様に、専門家の93%、一般市民の91%が、こうした危機的な状況が人々の生活にますます大きな影響を与えていると考えています。

いくつかのリスクは、根強く上位に残っています。3年連続で、気候変動、地政学的不安定性、サイバーセキュリティは、今後5年から10年という時間軸で専門家が懸念を示すリスクのトップ3となっています。また、2年連続でAIに関するリスクが、専門家にとってのリスクの4位となっています。その他のリスクについては、順位の変動が見られます。2020年に専門家にとって最大のリスクだったパンデミックおよび感染症は、現在は9位に、またエネルギーリスクは、2022年の4位から今年は7位に後退しました。

順位を上げたリスクには、社会的な緊張と社会運動（今年の8位から今年は5位）と新たな安全保障リスクとテロ（今年のトップ10圏外から今年は8位）が含まれます。

これらの上位リスクの多くは相互に関連し、共通項として対処するための統合的な取組みが必要です。

その一例が虚偽情報です：地政学的な対立の中で自陣を優勢にする手段として頻繁に使用されており、AIによってさらに影響力が強まっています。

虚偽情報は、社会的な緊張のリスクを増幅させ、気候変動などのさまざまな課題に対処するために必要な社会の結束を損ないます。

私たちの調査によると、人々は真実と虚偽を見分ける能力を過信しているようです。

ソーシャルメディア上の情報の信頼性を評価する能力に自信があるかを尋ねたところ、専門家の80%、一般市民の78%が「自信がある」と回答しました。しかし、一般市民がこの能力を持っていると思うかを尋ねたところ、専門家の75%、一般市民の60%が「持っていない」と回答しました。これらの数字は、ほとんどの人が誤情報や虚偽情報が問題であると認識していることを示唆しています。

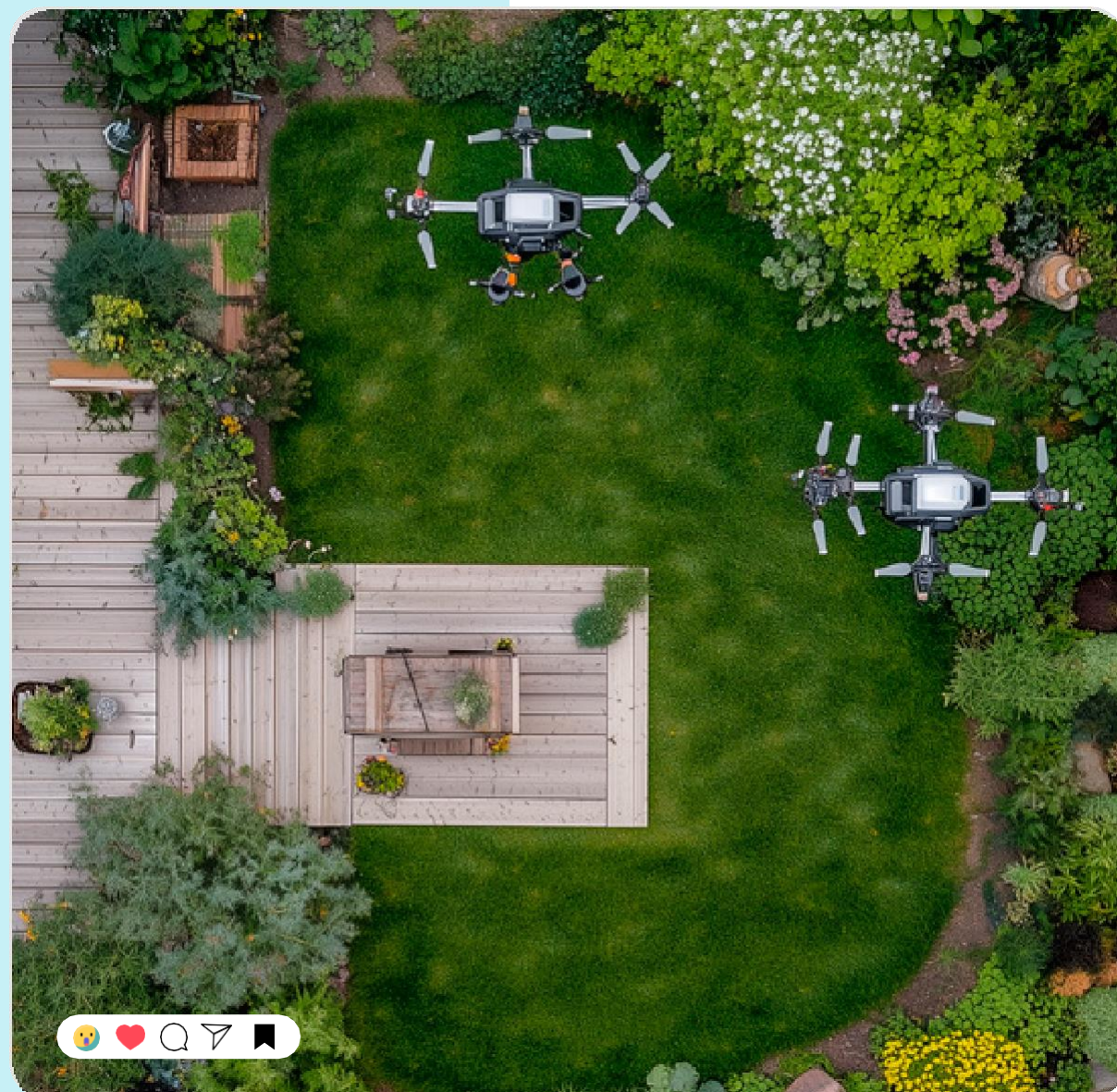
にもかかわらず、多くの人々は自分自身が操られたり誤解されたりすることがあるという脆弱性への自覚が低く、盲点がある可能性があります。

多くの重要な選挙が行われる中、誤情報や虚偽情報に対処するための効果的な戦略を持つことはこれまで以上に急務となっています。

しかし、ソーシャルメディアリテラシーの向上促進、誤情報の拡散防止、ソーシャルメディアプラットフォームの規制など、潜在的に必要なアプローチは複雑です。包括的かつグローバルなアプローチが求められています。

主な調査結果 2

虚偽情報や誤情報に取り組むには協力が不可欠です。

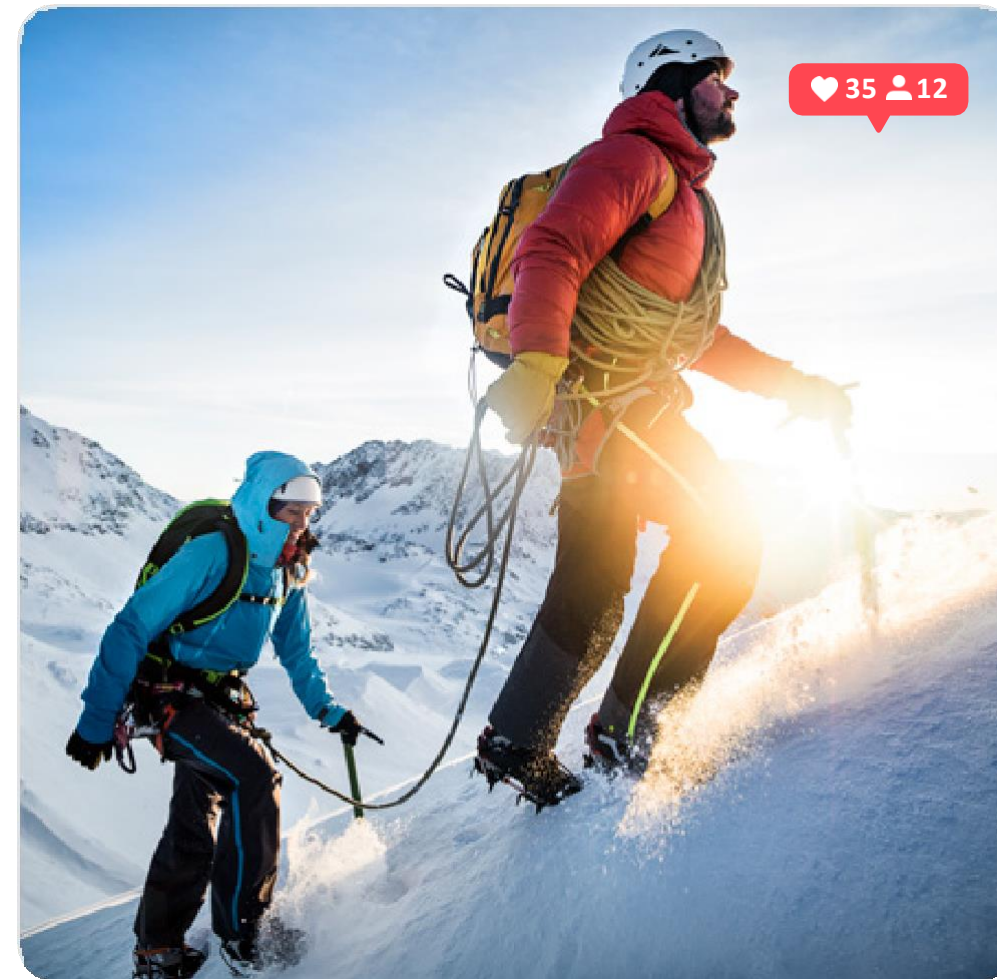


主な調査結果 3

保険会社はリスクへの対応において重要な役割を果たし続けている。

人々は、さまざまなリスクに対してより脆弱になっていることを強く認識しています。選択したリスク上位5項目それぞれについて日常生活で脆弱性を感じるか尋ねたところ、驚くことに「脆弱性を感じる」と答えた一般市民の割合は、リスク25項目すべてにおいて昨年の調査よりも高くなりました。専門家の間では、13のリスクでその数値が上昇し、さらに3つの数値は変化がありませんでした。このように脆弱性への認識は高まっていますが、**調査からは、学術界や国際機関などの諸機関による新たな危機への対応能力に安定した信頼が寄せられていることが判明しました。**

この信頼を維持するためには、公的機関がリスクの予防や緩和策への投資、規制の実施、リスクへの意識向上といった対策を講じる必要があります。特に保険会社をはじめとする民間部門との協力は重要な役割を果たします。専門家の91%、また一般市民の72%が、リスク管理において保険会社の役割が重要であると考えています。



91%

の専門家と

72%

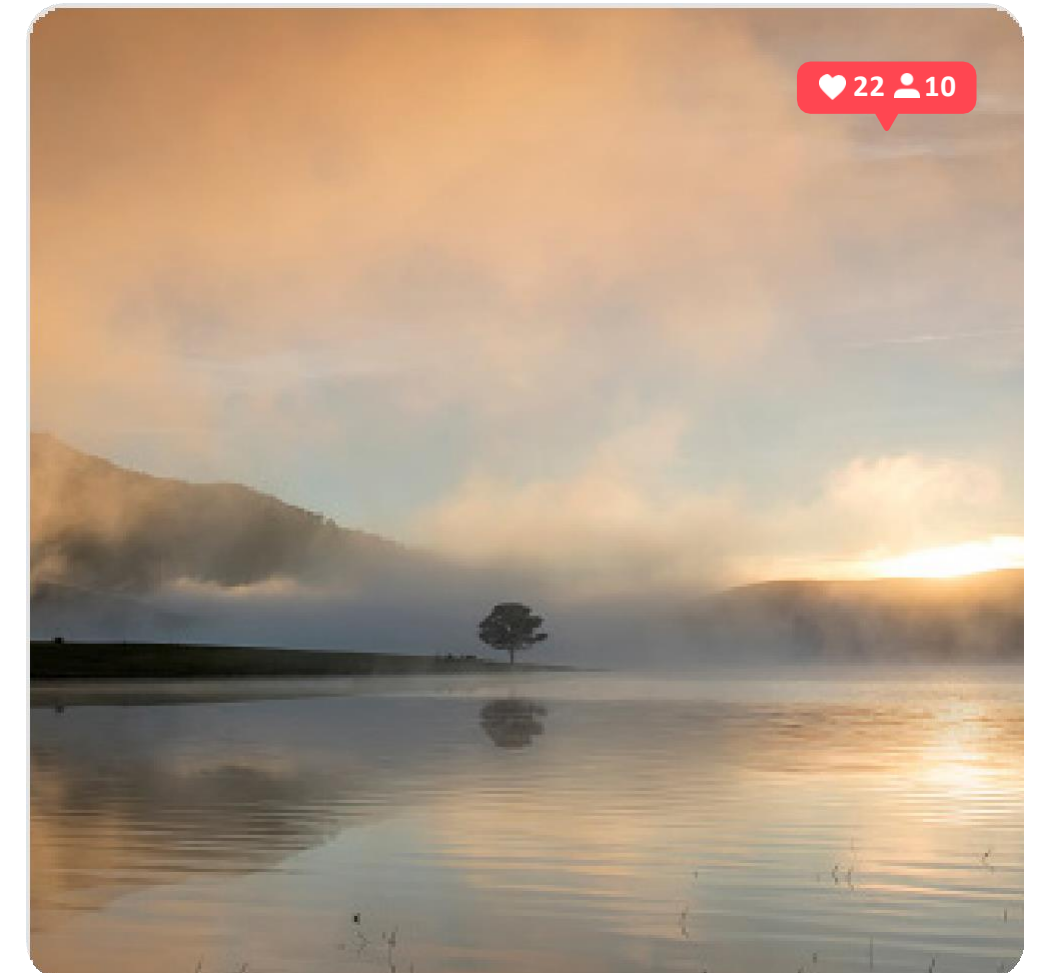
の一般市民は、
保険会社がリスク管理に
おいて重要な役割を果た
していると考えています。

アクサはその一翼を担います。

アクサは常に、リスクから個人、企業を守り、社会の繁栄を支えることに取り組んできました。アクサは、世界で最も高い関心を集めるリスクである気候変動との闘いに取り組むことに注力し、投資と保険事業の双方を通じて気候変動対策としてのクライメートランジションへの対応を支援しています。

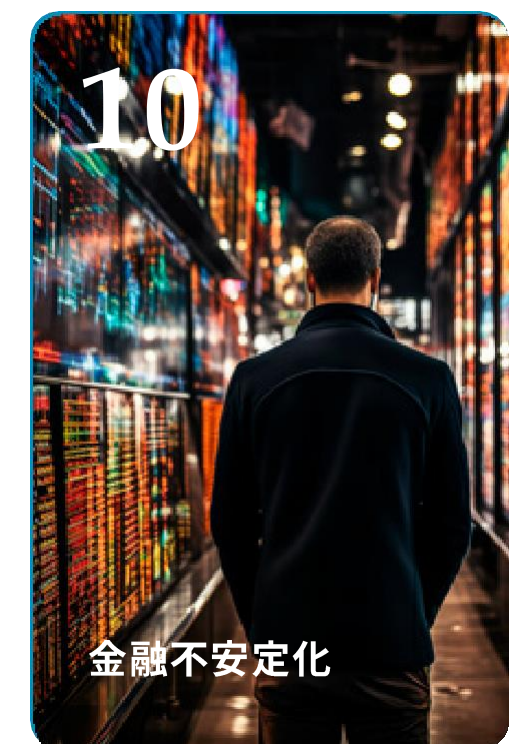
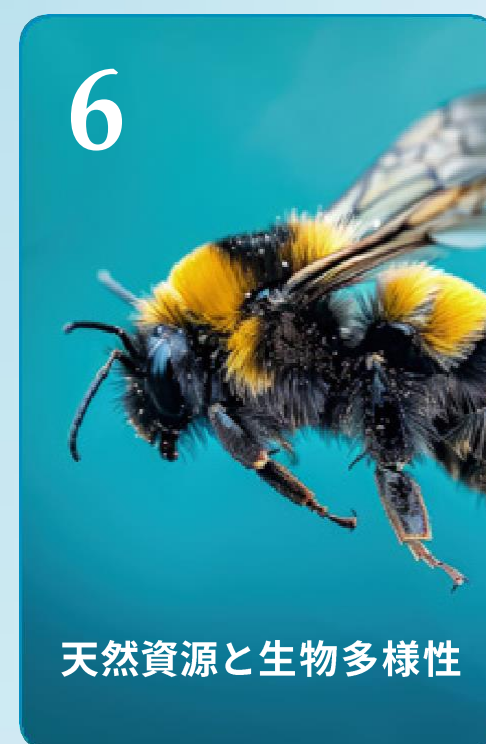


詳しくは
「Climate and
Biodiversity
Report」
をご覧ください。

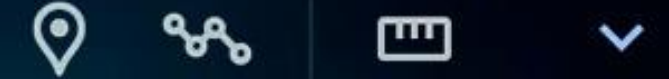


世界の新たなリスクTop 10

専門家の回答



2024 専門家による地域別 リスクランキング



南北アメリカ

1. 気候変動
2. サイバーセキュリティ
3. AIとビッグデータ
4. 地政学的不安定性
5. 天然資源と生物多様性
6. 社会的緊張と社会運動
7. エネルギー
8. パンデミックと感染症
9. 新たな安全保障上の脅威とテロリズム
10. 金融・財政政策リスク

アフリカ

1. 気候変動
2. サイバーセキュリティ
3. 地政学的不安定性
4. AIとビッグデータ
5. 金融不安定化
6. エネルギー
7. マクロ経済リスク
8. 天然資源と生物多様性
9. パンデミックと感染症
10. 金融・財政政策リスク

ヨーロッパ

1. 気候変動
2. 地政学的不安定性
3. サイバーセキュリティ
4. 社会的緊張と社会運動
5. AIとビッグデータ
6. 天然資源と生物多様性
7. エネルギー
8. 人口構造の変化によるリスク
9. 新たな安全保障上の脅威とテロリズム
10. マクロ経済リスク

アジア太平洋および中東

1. 気候変動
2. サイバーセキュリティ
3. AIとビッグデータ
4. 地政学的不安定性
5. 金融不安定化
6. パンデミックと感染症
7. エネルギー
8. 環境汚染
9. 天然資源と生物多様性
10. 技術利用に関する倫理的リスク

1 トップリスク

複合危機（ポリクライシス）から 誤情報に

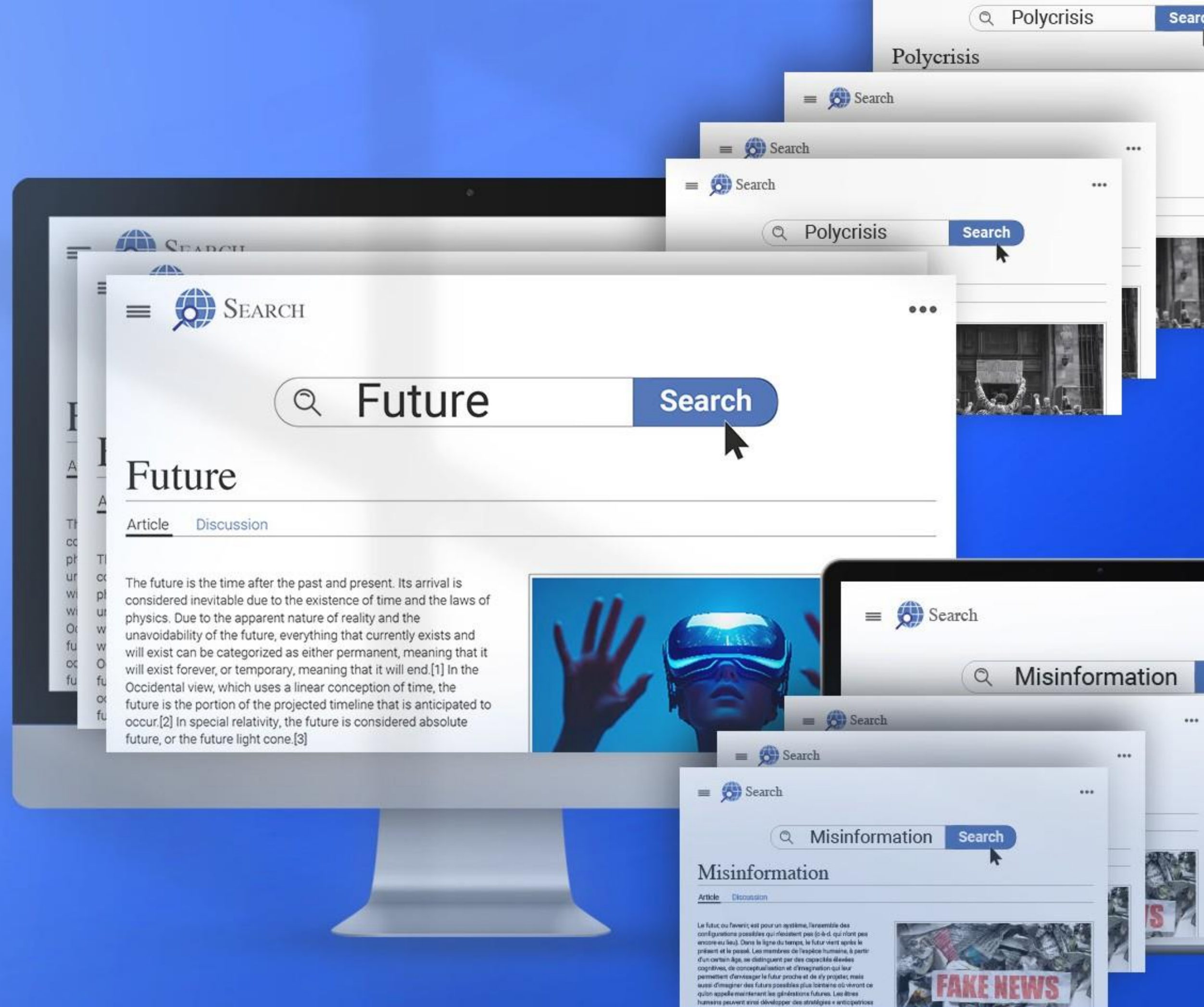
フューチャーリスク調査の概要

第11回目の「フューチャーリスク調査」では、世界中の人々を対象に、25項目のリスクを選択肢として提示し、今後5年から10年の間に社会に影響を与える可能性が高いリスクを5項目選択するよう依頼しました。

今年は世界50カ国、3,000人以上の専門家を対象に調査を実施しました。例年同様、専門家はアクサ社内¹およびビジネスパートナーの中から選定しました。またイプソス社の協力により、世界15カ国²の18歳以上の約2万人の一般市民を対象とした調査も実施しました。調査期間は、2024年5月14日から同年6月27日³です。

「フューチャーリスク調査」では、地域間の経年比較や、専門家と一般市民の認識の比較が可能です。

1. 特定分野の専門家だけでなく、全スタッフが対象となっています。
2. 調査方法の詳細については、43ページの「調査について」をご覧ください。
3. なれ意向を表明し国民議会選挙にCrowdの報道の先立つ時期に回答がある大統領が再選を目指さ



2024年の 上位リスク は？



1 気候変動

気候変動は依然として、すべての地域の専門家にとって最大の関心事

気候変動の影響に対する意識はますます高まっています：このリスクをトップ5に挙げた一般市民の77%が、日常生活で気候変動に対して脆弱性を感じると回答しており、その割合は昨年調査73%から増加し、2024年の環境汚染リスクと同様に高いものとなっています。



2 地政学的不安定性

地政学的不安定性をより多くの専門家が懸念

2023年の9%に対して、2024年は16%の専門家が第2位に挙げています。上昇の背景には、中東情勢の深刻化、ウクライナ紛争の長期化、緊張や反抗、保護主義の台頭といった世界情勢の深刻化の拡大が考えられます。



3 サイバーセキュリティ

サイバーセキュリティは引き続き大きな脅威

昨年の2位から3位に後退したものの、サイバーセキュリティは、依然として多くの専門家がトップ5に取り上げるリスクです。このリスクへの懸念は、地政学的不安定性と密接に関連している可能性が高く、AIの継続的な進歩や大手プロバイダーへの依存度の高まりとも関連しています。

フューチャーリスク トップ10 順位の推移

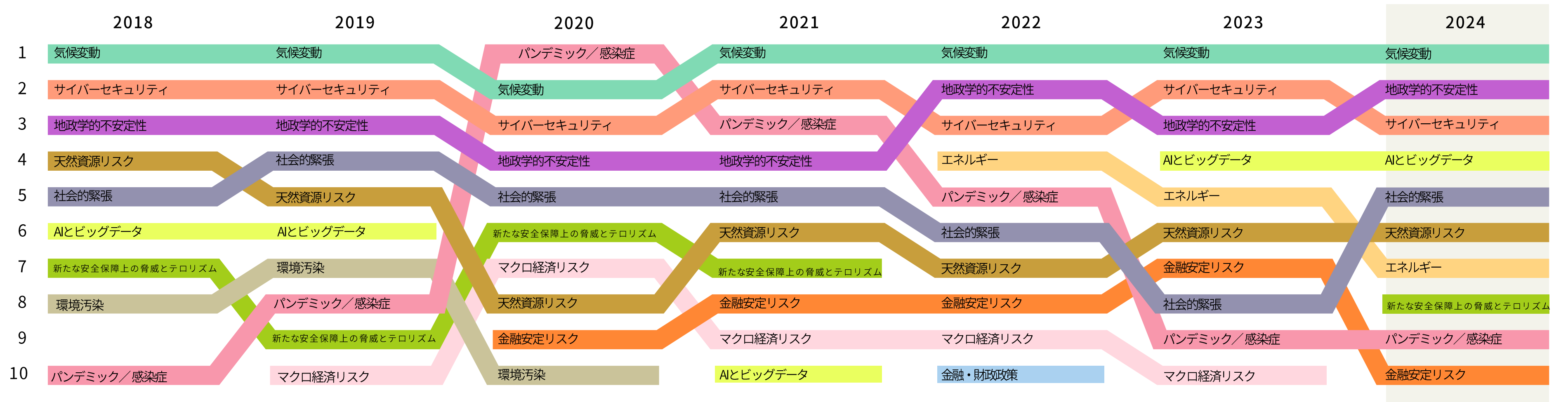
トップ10リスクに変動がないことは、行動を起こすべきだということ

専門家によるリスクトップ10のランキングは、過去4年間で、驚くほど変化が見られません。毎年、気候変動がトップに、サイバーセキュリティが2位または3位、地政学的不安定性が2位、3位、または4位に挙げられています。

一般市民によるトップ10も同様に変化が見られません。今年のトップ10は、前年と共通するリスクが9項目あり、その前年も前々年と同じリスク10項目で構成されていました。

専門家による上位リスク選択割合の推移（2018～2024年）

このトップ10は、すべてのリスクのランキングであり、2018年から同じ方法で算出されています。リスクが1位にランク付けされた場合、5ポイント、2位は4ポイント、5位は1ポイントなど、最大5位までポイントが与えられます。ランキングは、リスクごとの合計ポイント数に基づいています。



将来のリスクを予測する能力のさらなる強化に取り組んでいます



フレデリック・ドゥ・クルトワ
 アクサグループ
 デュプティCEO

「保険業界において好奇心は、進化するリスク環境を理解し、積極的なアプローチを促進する鍵となります。」

フレデリック・ドゥ・クルトワ

保険会社の日常業務における複合危機（ポリクライシス）の影響について見解をお聞かせください。

フレデリック・ドゥ・クルトワ: ポリクライシスが与える影響は、ますます顕著なものとなってきています。例えば、2024年は主要な国々で選挙イヤーとなりますが、保険業界の複雑化に拍車をかけるような深刻な社会・地政学リスクの増加が目立っています。これらのリスクは金融市場から規制の側面、そして事業運営能力に至るまで広範囲にわたって影響を及ぼします。サイバーセキュリティやAIなどの新たなテクノロジーリスクの出現によって、これらのリスクはさらに深刻化しています。保険会社は、ますますダイナミックになる環境に機敏に対応し、自社の事業とお客さまを確実に守ることが求められています。また、年金問題以外の高齢化の問題にも備えなければなりません。生産年齢人口の減少は成長と生産性に影響を及ぼし、扶養や健康の問題はより深刻化するでしょう。私たちは人生のさまざまな段階に合わせた新たな解決策を考案する必要があります。

マクロ経済の論点として、インフレと金利が依然として高い関心を集める中、金融リスクが新たに高度な方向へと進化し、状況はさらに複雑さを増しています。環境面では、2024年は北半球で観測史上最も暑い夏を記録しました。気候変動が引き起こすさまざまなリスクは増加し続けています。自然災害だけでなく、新たな地域に病気が蔓延したり、異常気象が人体の回復力を損なったりするなど、人間の健康にも深刻な影響を及ぼしています。保険会社は、「永久汚染物質」などの新たな環境問題にも対処する必要があります。

リスクが複雑化し、相互依存的に進化する状況下において、保険の専門家にとって重要なことは何でしょうか？

フレデリック・ドゥ・クルトワ:

リスクが複雑化するにつれ、保険業界は新たな能力を育成し、引受業務とリスク管理に対してより包括的なアプローチを執る必要があります。ポートフォリオ管理における革新的な引受方法論の採用や、資本モデルや災害モデルなどの高度なリスク管理ツールの導入などが考えられます。

また、エンジニアリングやグリーンテクノロジーなどの分野における新たな能力の獲得も、引受能力の向上には不可欠です。保険業界において好奇心は、進化するリスク環境を理解し積極的なアプローチを促進するうえで鍵となります。さらに、学際的なチームで協働的に業務を行うことの重要性がこれまで以上に高まっています。これらのアプローチによって、私たちは多面的なリスクを包括的かつ微妙な違いまで理解することができるのです。アクサは、[アクサリサーチファンドを通じて](#)学際的な基礎研究に取り組んでおり、将来のリスクを予測する能力のさらなる強化に取り組んでいます。





パトリック・コーエン
アクサ、欧州市場&ヘルス チーフ・エグゼクティブ・オフィサー

「長く充実した人生を送るためには、健康な心は健康な身体と同様に重要です。アクサでは、メンタルヘルスに対する偏見を打破し、医療従事者、政策立案者、企業によるメンタルヘルス対策への投資を促進しています。」



続きを読む (英語)
[AXA Mind Health Report](#)

テクノロジーリスクは新たなパンデミックである

アクサは調査の中で毎年、専門家と一般市民に、リスク顕在化のスピード：ゆっくり、急速、あるいはすでに完全に顕在化している、について認識に近いものを選択するよう尋ねています。

専門家や一般の人々は、AIとビッグデータに関するリスクが最も急速に台頭していると考えており、次いで破壊的技術を挙げています。



男女格差：女性健康リスクを優先する傾向が強い

性別ごとに調査結果を分析すると、女性の方が男性よりも健康に関するリスクを懸念する傾向が強いことが明らかになりました。例えば、一般市民の間では、女性はパンデミックと感染症を3位に、慢性疾患を6位に挙げているのに対し、男性はそれぞれ6位と12位となっています。専門家では、女性は9位と13位に、男性は11位と16位に挙げられています。



専門家と一般市民の違いは？

2024年の調査結果は、**専門家と一般市民の認識が一致しつつある**ことを示唆しています。今年、各グループの上位10項目には共通するリスクが9項目ありました。前年は共通リスクが8項目だったことと比較すると、認識が一致しつつある傾向が明らかになっています。

「**新たな安全保障上の脅威とテロリズム**」は、いずれのランキングでも上位に位置づけられていますが、**一般市民の方がより懸念を示しています**。新たな安全保障上の脅威とテロリズムは、一般市民にとって常にリスクの上位に挙げられてきましたが、今年**は専門家の間でも上位に挙げられ、**昨年の16位から8位に急上昇しています。

専門家は、**AIとビッグデータに関連するリスクに高い懸念を示しています**。このリスクは、一般市民のトップ10にも初めてランクインし、10位となりました。

上位10位の構成で**唯一異なるのは、環境リスクへの優先順位でした**。両グループとも、環境リスクである気候変動をトップに挙げています。一般市民は環境汚染をトップ10に挙げていますが、**専門家は天然資源と生物多様性のリスクにより懸念を示しています**。

一般大衆と専門家が選ぶベスト10

専門家

- 1 気候変動
- 2 地政学的不安定性
- 3 サイバーセキュリティ
- 4 AIとビッグデータ
- 5 社会的緊張と社会運動
- 6 天然資源と生物多様性
- 7 エネルギー
- 8 新たな安全保障上の脅威とテロリズム
- 9 パンデミックと感染症
- 10 金融不安定化

一般市民

- 1 気候変動
- 2 新たな安全保障上の脅威とテロリズム
- 3 サイバーセキュリティ
- 4 社会的緊張と社会運動
- 5 パンデミックと感染症
- 6 地政学的不安定性
- 7 金融不安定化
- 8 環境汚染
- 9 エネルギー
- 10 AIとビッグデータ

見過ごされているかもしれないリスク

2025年、太陽嵐がニュースの見出しを飾る可能性がある

宇宙と惑星のリスクは、専門家、一般市民ともに初めて最下位（25位）にランクインしました。このリスクをトップ5に挙げた専門家はわずか2%、一般市民では6%でした。

しかし、深刻な太陽の活動現象は、2017年と2021年に発生したように、衛星ナビゲーションシステムだけでなく、通信システムや電力網にも重大な影響を及ぼす可能性があります。

太陽の活動現象を予測することは困難ですが、**2025年7月に太陽が11年間の磁気活動サイクルのピークに近づくにつれ、リスクが高まる可能性があります。**¹

宇宙および惑星のリスクを選択した専門家と一般市民は共に、太陽嵐の潜在的な破壊力を主な懸念事項として挙げた可能性が高いと考えられます。このリスクを選択した専門家に、このリスクに対する一般市民の認識について尋ねたところ、「認識している」との回答はわずか15%でした。これはリスク25項目の中で最も低い数値です。一方、一般市民の58%は、当局がこのリスクの発生に対して十分な備えができていないと考えています。これはサンプルの中で2番目に高い数値です。彼らの自信は、今後1年で試されることになるでしょう。

1.出典 NASA



世界規模のリスクには 世界規模での解決策が必要



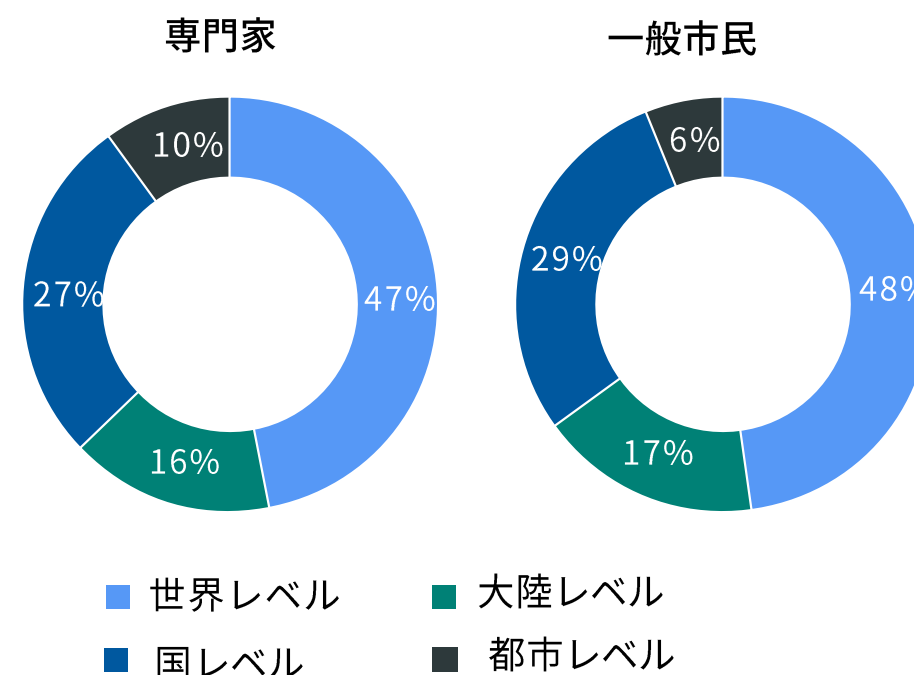
2024年の調査終了直後に発生したCrowdStrikeのシステム障害¹は、サイバーセキュリティリスクに対する世界的な脆弱性を如実に示すことになりました：

世界中でWindowsコンピューターがクラッシュし、その経済的混乱は10億ドル以上²に上りました。この事件により、すべての利害関係者の間でサイバーリスクに対する認識が広まり、世界におけるわずか数社のテクノロジーサービスプロバイダーへの依存の大きさが明らかになりました。

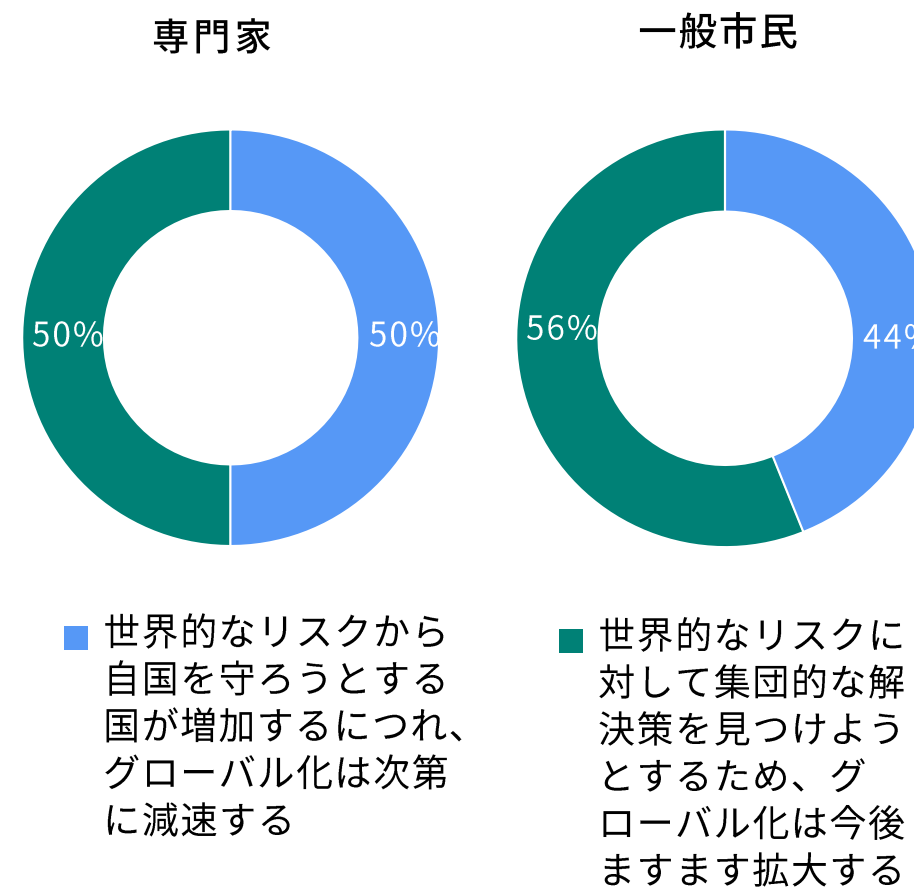
世界的なリスクには世界レベルの対策が必要であり、今回の調査でも、専門家（47%）と一般市民（48%）の多数が、将来のリスクに関する決定は世界レベルで行うのが最も効果的だと考えていることが判明しました。しかし、これらの数値は昨年と比べ、減少しており、都市レベルでの意思決定を要望する専門家が増加しています。

1. ブログマイクロソフト
2. CNN版

将来のリスクに直面した際の最も効果的な意思決定レベル



グローバル化とリスクに関する見解



地政学的な緊張は依然として世界規模での協力の試みを妨げています。今年の調査では、専門家（50%）および一般市民（44%）共に、各国が集団的解決策に向けた協力よりもリスクから自国を守ることを優先するため、グローバル化が後退するだろうと考える割合がわずかに増加しました。数値は共に、昨年より1ポイント上昇しています。



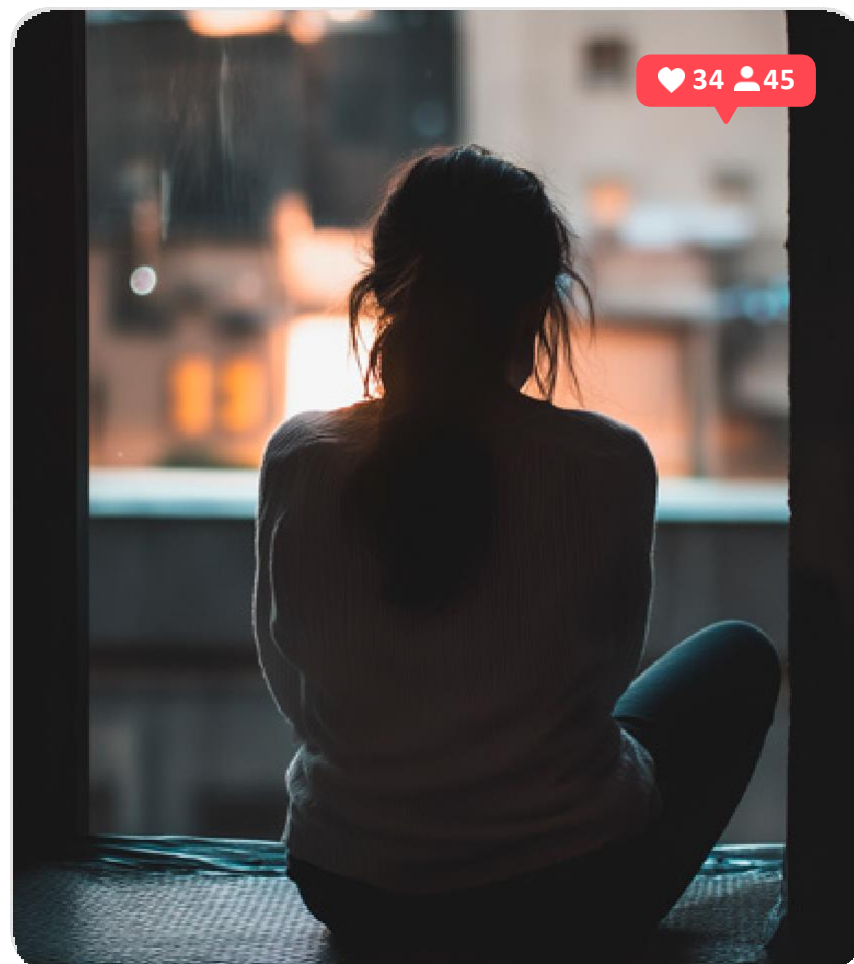
人々は昨年よりもあらゆるリスクに対して脆弱性を感じています

昨年¹の報告書では、世界が「複合危機（ポリクライシス）」という新たな時代に突入したという考えが強調されました。今年の調査では、この認識を新たに追加された質問からも確認しました。

専門家（92%）と一般市民（90%）の大多数が、近年、危機の数が増加しているとの意見に同意しました。

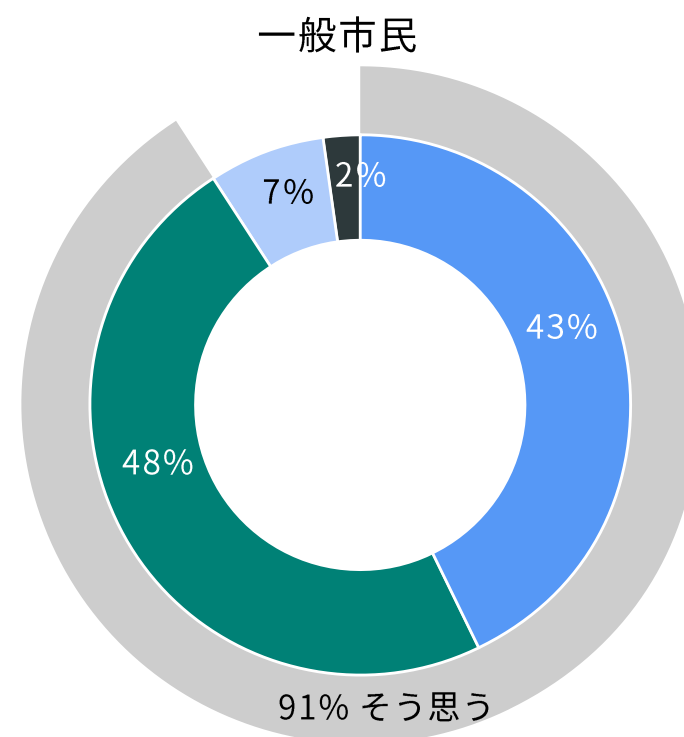
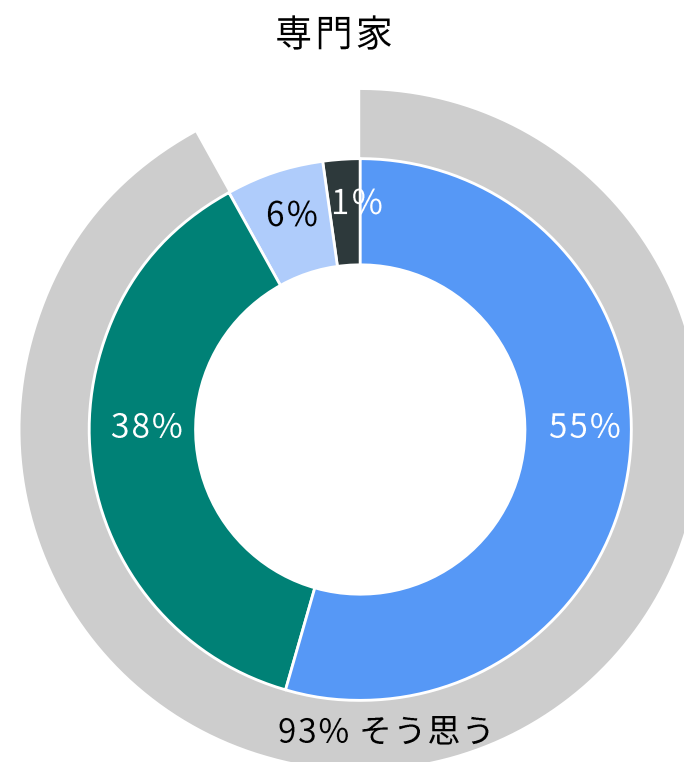
これらの危機が人々の生活に与える影響がより重要になっていることに同意した人の割合は、それぞれ93%と91%でした。

一般市民は、上位5位に選んだリスクに対して日常生活で脆弱性を感じていると回答する傾向が昨年よりも顕著になっています。



危機がもたらす影響に関する意見

「近年、危機が人々の生活にますます大きな影響を与えるようになったと思いますか」との質問に対する専門家と一般市民の回答比率



■ とてもそう思う ■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ そう思わない

若者に焦点を当てる

環境意識と技術への自信

一般市民の若年層は、さまざまな環境リスクに対して、高齢世代よりも高い関心をもっています。

すべての年齢層が気候変動をリスクの上位に挙げている一方で、25歳未満の世代は、公害を3位（全体では8位）、天然資源と生物多様性リスクを9位（12位）に挙げました。

若年層はまた、技術的リスクを克服する人類の能力に、自信を持っているようです。25歳未満の世代は、サイバーセキュリティ・リスクを6位（全体では3位）とし、AIリスクに対する懸念も、全体に比べわずかに低く評価しています（全体の10位に対し若年層11位）。



リスク認識は地域によってどう異なるか？

気候変動が主要なリスクであることは、どの地域の専門家も一般市民も見解が一致しています。ヨーロッパでは、専門家の67%、一般市民の49%が気候変動リスクを上位5位に挙げているのに対し、米国ではそれぞれ43%、38%でした。

欧州の人々が特に懸念を示しているのは、社会や政治のリスクでした。地政学的不安定性、社会的緊張と社会運動、新たな安全保障上の脅威とテロリズムのすべてが、一般市民と専門家の両方でトップ10に入っているのはヨーロッパだけでした。

アフリカと南北アメリカでは、慢性疾患が特に懸念されています。それぞれ5位と8位となり、欧州とアジアでは11位でした。

アフリカの専門家は、他の大陸の専門家よりも経済リスクを高く位置づけています。アフリカは、専門家の上位10位までに2つの経済リスクがランクインした唯一の大陸です。金融不安化リスクは、アジア太平洋および中東と並んで最高位となる5位、マクロ経済リスクは7位となりました。

パンデミックと感染症は、アジアで特に懸念されています。アフリカと同様、アジアの一般市民もこのリスクを上位3位に挙げています。アジアの専門家はこのリスクを6位としており、他の大陸の専門家よりも高く位置づけています。欧州では、このリスクはもはや専門家の上位10位に挙げられていません。

地域別10大フューチャーリスク

専門家



一般市民



技術の進歩は、私たちのアプローチを最適化する機会である



フランソワーズ・ジル ✨
アクサグループ
チーフ・リスク・オフィサー

リスク・マネジメントは以前より複雑になっていると考えますか？

フランソワーズ・ジル：私たちが長年にわたって認識してきたリスクはある程度安定したものでしたが、私たちが事業運営する環境は加速度的に変化しています。リスクは地理的な広がりを見せ、互いに絡み合い、結びつき、最終的にはその潜在的影響力を増幅させる傾向にあります。サイバー攻撃を例に考えてみましょう。サイバー攻撃はビジネスや公共サービス、個人の生活を破壊するだけでなく、政治的により高度な目標を達成するための手段として組織的に行われうる、ということまで増して見て取ることができるようになってきました。こうした目標には、地政学的脅威や社会不安を増大させる情報戦、社会的な趨勢をつくる動きなどが含まれます。

企業の立場からリスク・マネジメントを行うことは、決して容易なことではありません。最初にリスクを特定し、それがオペレーションにどのような影響を与えうるかを評価し、どの程度許容できるかを判断し、関連するモニタリングや緩和策をどのように実施するかという、リスク・マネジメントの基本原則はこれまでと何ら変わるものではありません。

リスク・マネジメントが複雑さを増しているのは、リスクを特定し、評価し、優先順位をつけ、監視し、軽減する方法を問い直し、常にアプローチを見直す必要があるからだとは私は考えています。それは単に環境に対応するためだけではありません。私たちは、新たなトレンドを把握し、関連する指標を見つけ、リスクに対応するための計画を立てる能力を、サイロに陥ることなく、互いに関連させながら備えていなければなりません。

アクサのようなグローバルな保険会社は、将来のリスクに対応するためのグローバルなソリューションの開発にどのように貢献しているのでしょうか？

フランソワーズ・ジル：グローバルな保険会社として、アクサの強みは従業員の専門知識と世界中に広がるネットワークにあります。これにより、特定の地域や業界におけるリスクの全体像を早期に把握し、その潜在的な影響を評価することができます。私たちは、各地に専門家との強力なネットワークを構築し、研究者や科学者とのパートナーシップを結ぶことで、新たに出現するリスクに関する知識を深め、常に一歩先を行くことを目指しています。私たちが目指すのは、リスクへの対応能力を構築することだけでなく、リスクの発生をより正確に予測し、予防し、お客さまへの影響を最小限に抑えることです。

技術の進歩はリスクの要因となるだけでなく、お客さまのニーズにより適したアプローチを可能にする、素晴らしい機会でもあります。アクサXLリスクコンサルティングは、お客さまにエンジニアによる洞察やサポートにとどまらず、お客さまのリスクをグローバルに特定、監視、管理できるオンラインプラットフォームを提供しています。

将来のリスクに向き合うということは、リスクを特定し、優先順位を付け、測定することであり、また、お客さま、スタッフ、株主にとって必要な時に必要な場所で必要なソリューションを開発できるよう、社内外で新しいアプローチを常に模索し続けることなのです。

「私たちが目指すのは、リスクへの対応能力の構築だけでなく、リスク発生のより正確な予測と予防によって、お客さまへの影響を最小限に抑えることです。」

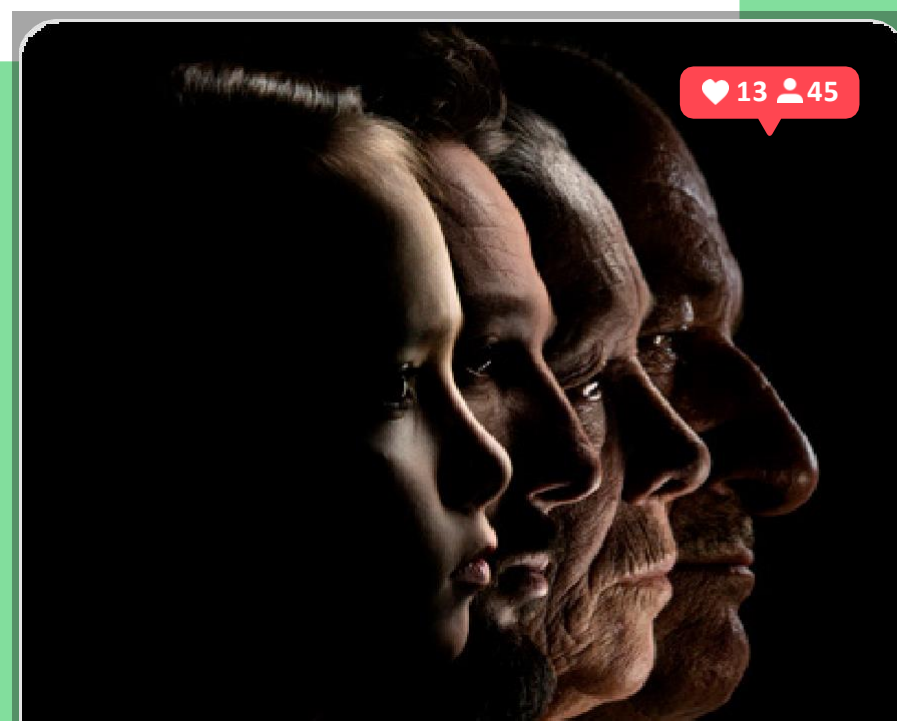
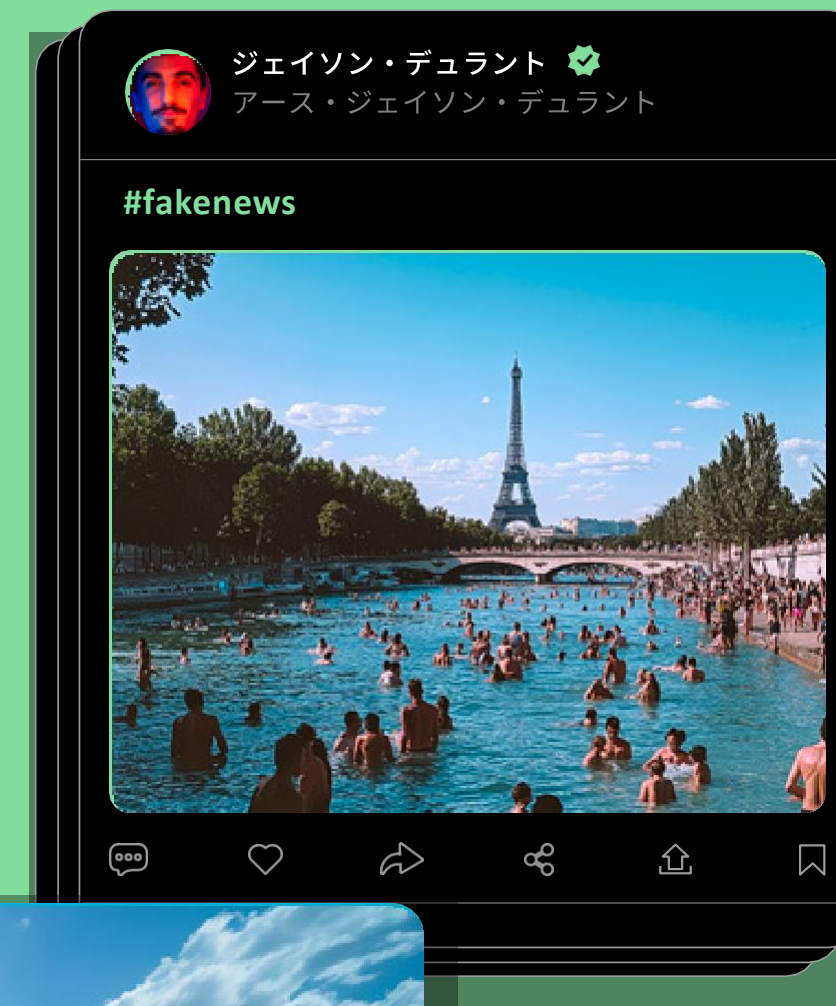
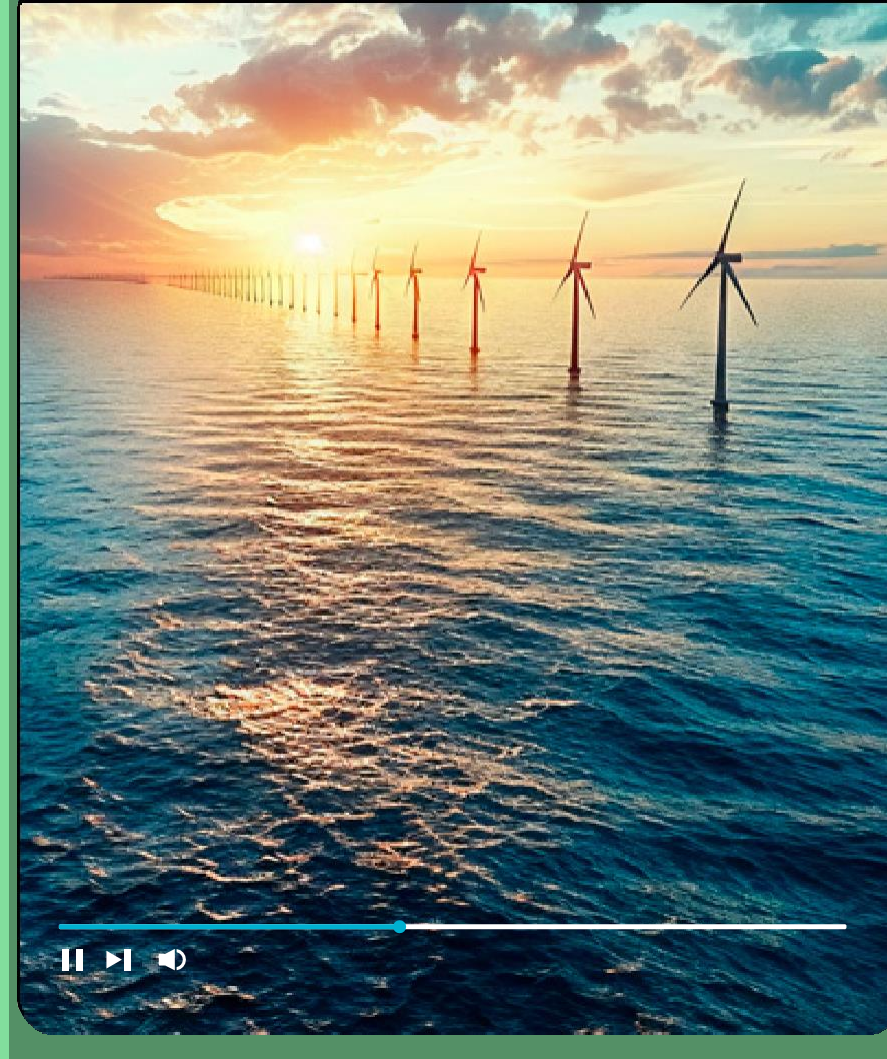
🗨️ フランソワーズ・ジル



人口構造の変化と 気候変動

双方に取り組むためには 大胆な発想が必要

高齢化による財政負担の増加は、政府予算を圧迫し、気候変動対策への必要な資金配分を困難なものにするでしょう。政府は、社会保障制度やインセンティブの再構築を含む、持続可能な取組みや技術を導入するための包括的な戦略を策定する必要があります。世代間の対話と協力を促進するためには、効果的なコミュニケーションをいかにとるかが鍵となります。



「複合危機（ポリクライシス）」の時代、 気候変動の将来コスト の予測は困難

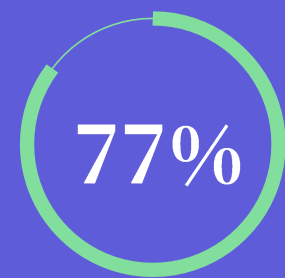
3年連続で、専門家と一般市民は共に、気候変動を最も深刻なリスクとして認識しており、専門家の63%、一般市民の45%が上位5つのリスクに挙げています。

さらに、すべての大陸において2年連続で、専門家と一般市民の双方にとって最も深刻なリスクとして挙げられたのは、気候変動でした。



気候変動の緩和には緊急かつ巨額の投資が求められており、現時点で投資を怠れば、将来的にさらに大きなコストが発生すると予測されています。[ポツダム気候影響研究所¹](#)は、気候変動が2050年までに世界経済にもたらす損害は、毎年19兆ドルから59兆ドルに上ると試算しています。ただ、気候変動が他のリスクに与える影響については確証が持てないため、正確な予測を立てることは困難です。

また、リスクに気候変動を挙げた回答者に、主な懸念を尋ねたところ、例えば2024年の調査で新たに追加された「気候移民」を選択した専門家はわずか5%、一般市民は6%でした。しかしながら、気候変動は社会的緊張や地政学的不安定性といった他のリスクを著しく悪化させ、大規模な移民を引き起こす可能性が高いと考えられています。その一因には、食糧や水の不足があります。(ボックス参照)



世界気象機関によると、2023年は記録上、史上最も暑い年となりました。近年の気温上昇により、気候変動の脅威を身近に感じる人が増加しています。

気候変動を上位5つのリスクの1つに挙げた一般市民のうち、77%が日常生活でこのリスクの影響を感じていると回答しています。

1.ポツダム気候影響研究所
2.世界銀行グループ

FOCUS

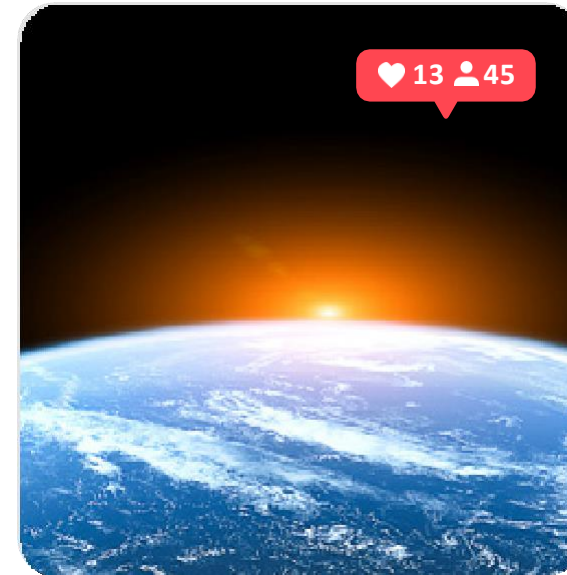
気候変動による水不足は 社会的緊張を誘発する

「社会的緊張」と「社会運動」を上位5つのリスクに挙げた回答者は、昨年比で、その動機として、大規模な移民への懸念を示していることがわかりました（専門家では3ポイント増の14%、一般市民では2ポイント増の19%）

水不足は、1970年から2000年における国内移住の増加分のうち10%に影響を及ぼしています。世界銀行²は、気候変動が今後、より深刻な干ばつを引き起こすと予測しています。



高齢化に伴うコストが気候変動への対策に必要な資源を圧迫



ポツダム気候影響研究所は、**温暖化抑制のために今多くの投資を行うことが、将来何倍もの利益をもたらすと予測しています。**1ドル投資すれば、将来の6ドルのコスト回避につながる可能性があるのです。

しかし、高齢化社会が進むにつれ、医療、社会福祉、年金予算への圧力が高まるなど、他の喫緊の課題によって資源を制約されているのが実情です。

「人口構造の変化」に関連するリスクを上位5つに挙げた回答者に、その主な動機を選択するよう尋ねたところ、最も多かった回答は「医療と年金の財政負担」でした。しかし専門家の回答の中では、昨年より「世代間の不均衡と緊張の高まり」が増えています（27%対19%）。政府はこれらのリスクに留意しなければなりません。

その背景には、医療と年金への資金負担が必要なうえに、気候変動対策への投資不足に対する若い労働者の不満があるからです。**人口構造の変化は、脆弱性だけでなく、新たなチャンスを生み出す可能性もあります。**一部の地域では、急速に高齢化が進む一方で、特にアフリカやアジアでは急速に若年人口が増加しています。政策立案者は、多様な年齢層のニーズに対応し、異文化への理解を促進しながら、全ての人々にとって機会の創出につながる包括的で持続可能な戦略を立案する必要があります。

11th

「人口構造の変化に関連するリスク」は、依然としてあまり注目されていないものの、今年のランキングではわずかに浮上しました。専門家の間では11位（欧州では昨年より2つ順位を上げ、8位に）、一般市民の間では1つ順位を上げ、16位になりました。

LIVE

「年々激しさを増す降雨が、急激な洪水のリスクを高める」

フロラン・ロブリジョワ 🌟

自然災害リスク管理グループヘッド

気候変動が気象現象に与える影響について、専門家としての見解をお聞かせください。

フロラン・ロブリジョワ：

気候変動が気象現象に与える影響は地域によって異なりますが、気温上昇との明確な関連性は観測されています。最も直接的な影響は、干ばつ、熱波、山火事などです。さらに、温暖化は大気力学（地球規模および地域規模の循環、対流、熱帯および亜熱帯低気圧）を加速します。これにより、大気の物理的性質も変化し、より暖かい大気にはより多くの水が含まれ、熱膨張により海水の容積が増加します。これは海面上昇を引き起こすだけでなく、より激しい沿岸洪水ももたらし、洪水リスクを高めます。対流パターンの変化は雹、竜巻、直進風となって現れます。

気候変動によって、長期気象モデルは今後どのように進化していくと考えられますか？

フロラン・ロブリジョワ：

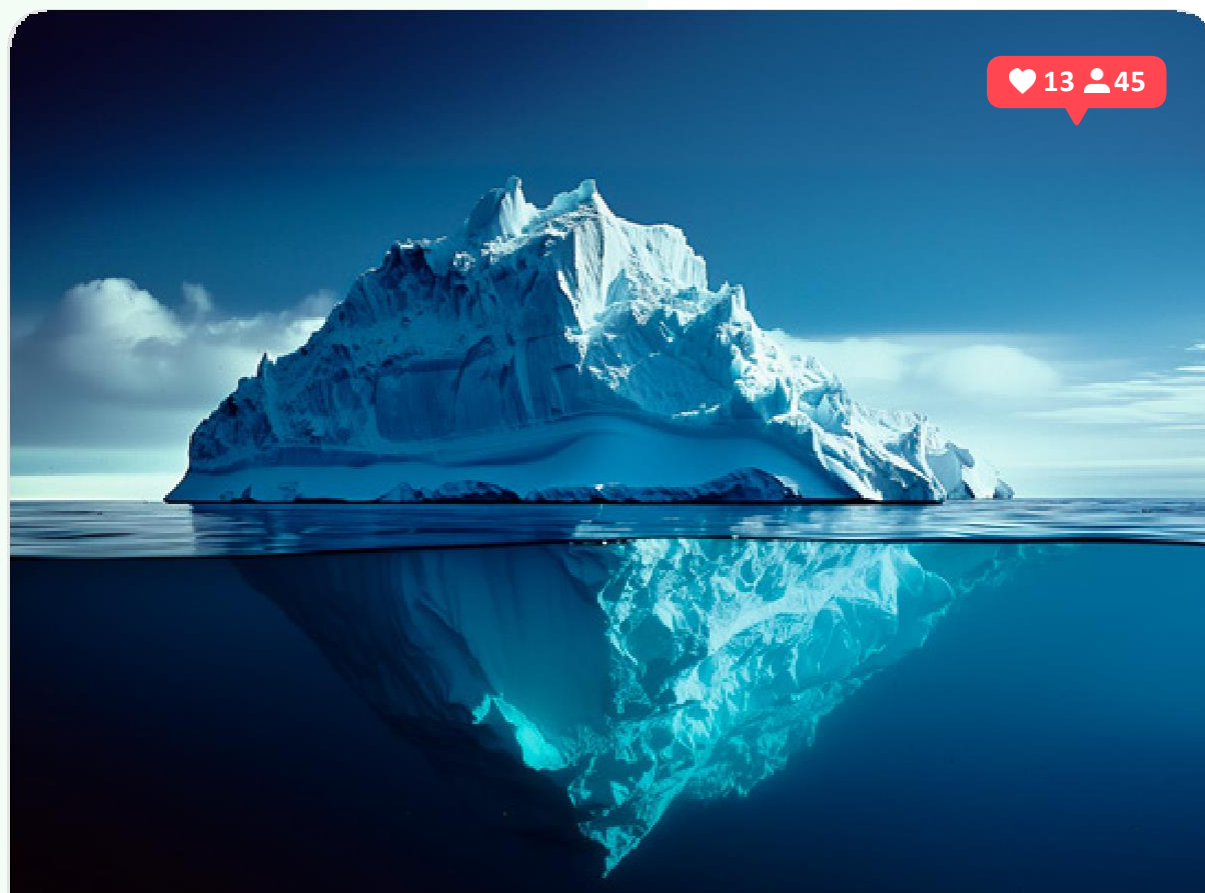
気候は連成した非線形かつカオス的なシステムであり、これは正確な長期予測が単純には不可能であることを意味しています。予測の初期条件のわずかな誤差が急速に拡大し、より強力な大気の動態が不確実性をさらに増大させます。気候変動に関する政府間パネル（IPCC）は、多様なモデルを統合して将来の可能性を予測しようと試みていますが、確実に言えることは、将来、大規模、あるいは中規模の自然災害の発生頻度が増加していくだろうということのみです。

インタビュー

保険業界は気候変動に対応する移行を実現するために新たなリスクをカバーする必要がある



ウルリケ・ドゥコエヌ ♡
 アクサグループ
 チーフコミュニケーション・
 ブランド・サステナビリティ・
 オフィサー



専門家や一般市民の間では、今年もまた、気候変動リスクが最大の脅威となっています。アクサの行動指針について教えてください。

ウルリケ・ドゥコエヌ：2024年、私たちは気候変動とインクルージョンに強く焦点をあてた新しい戦略計画「Unlock the Future」を発表しました。

気候変動に対応するための移行と適応という2つの課題に取り組むために、アクサは、お客さま、経済、そして社会をサポートするための2026年までの非常に意欲的なロードマップを策定しました。

まず、2026年までに気候変動対策における移行を支援するために、60億ユーロの保険料目標を掲げ、建設や運輸などの主要分野で損害保険を提供します。また、2026年までに9,000以上の気候変動に適応するための気候変動への対応のためのソリューションとサービスを法人顧客に提供することを目指します。

投資家としては、2019年から2023年の間にグリーン投資300億ユーロという目標を達成しています。現在は、移行資金を調達する企業向けのトランジションファイナンスで年間50億ユーロの再投資を目指しています。

さらに、2019年から2023年の間に一企業として、二酸化炭素排出量を34%削減しました。気候変動への取組みは社会的コミットメントと密接に関連しているため、世界中の支援を必要とする顧客が適切な保険に加入できるよう、包括的な保険適応を戦略の一つに掲げています。

「保険業界は気候変動対策における移行を支える重要な役割を担っており、保険なしでは地球温暖化のスピードに追いつくことはできません。」

〇〇〇 ————— ウルリケ・ドゥコエヌ

アクサは、新たに挑戦のレベルを引き上げようとしています。単独で行動することは不可能ですね。気候変動対策における保険業界の役割をどのように考えていますか。

ドゥコエヌ：私たちの業界は気候変動対策における移行を支えるという重要な役割を担っています。保険がなければ、地球温暖化のスピードに追いつくことはできないでしょう。

ハウデンとBCGの最近の調査によると、2030年までの気候変動対策における移行のための資金調達には、すでに19兆ドルの投資が確約されています。このレベルの投資によって経済全体の変革が加速する可能性がある一方で、同調査は、最大10兆ドル分の追加保険が必要になると見積もっています。

従って保険業界では、特にエネルギーや建設などの分野において気候変動対策における移行を実現するためにも、21世紀の新たなリスクの分析、適切な保険料の設定、そして保険の提供が不可欠になります。

例えば、昨年のアクサの実績では再生可能エネルギー関連の保険料収入は約2億5,000万ユーロでした。

地球温暖化は日々、自然災害、生物多様性の損失、飢饉、移民の増加といった脅威をさらに増幅しています。このような世界で果たして保険を提供し続けられるのでしょうか？

ドゥコエヌ：アクサは、世界は保険が適用可能な状況を維持できると強く確信しています。そのためにもまずは、リスク予防に重点を置き、リスクを最小限に抑える必要があります。

次に、気候リスクに対する保険料の適正な設定が必要になります。ここではリスクモデリングと予測に関する専門知識が決定的な強みになります。最後に、CatNatのような制度を通じて、政府機関と民間企業とのパートナーシップの構築が必要となるでしょう。このような方法で私たちは、世界を保険に加入できる状態にとどめ、お客さまを守り続けることができると考えています。

高齢化によるコストが気候変動による影響の緩和に必要な資源を圧迫



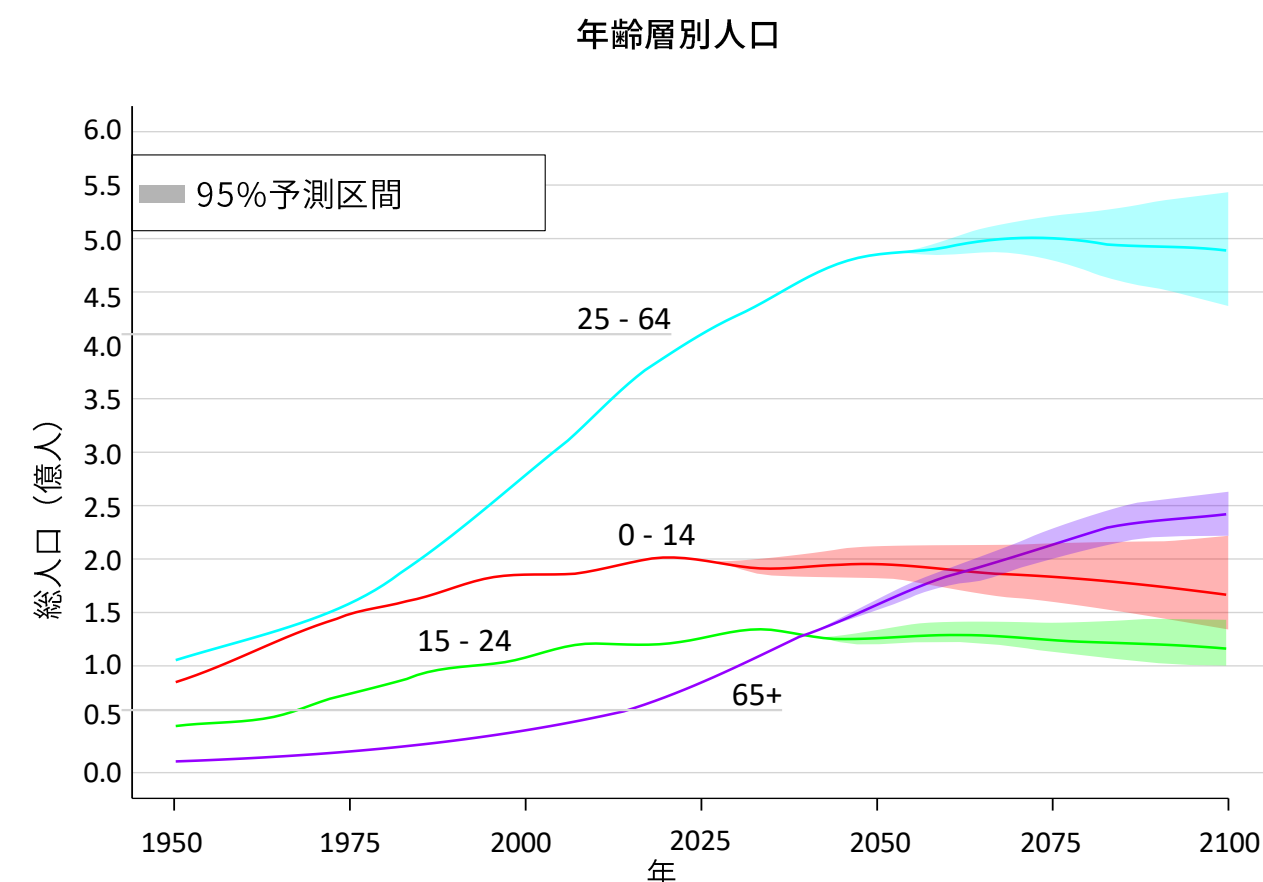
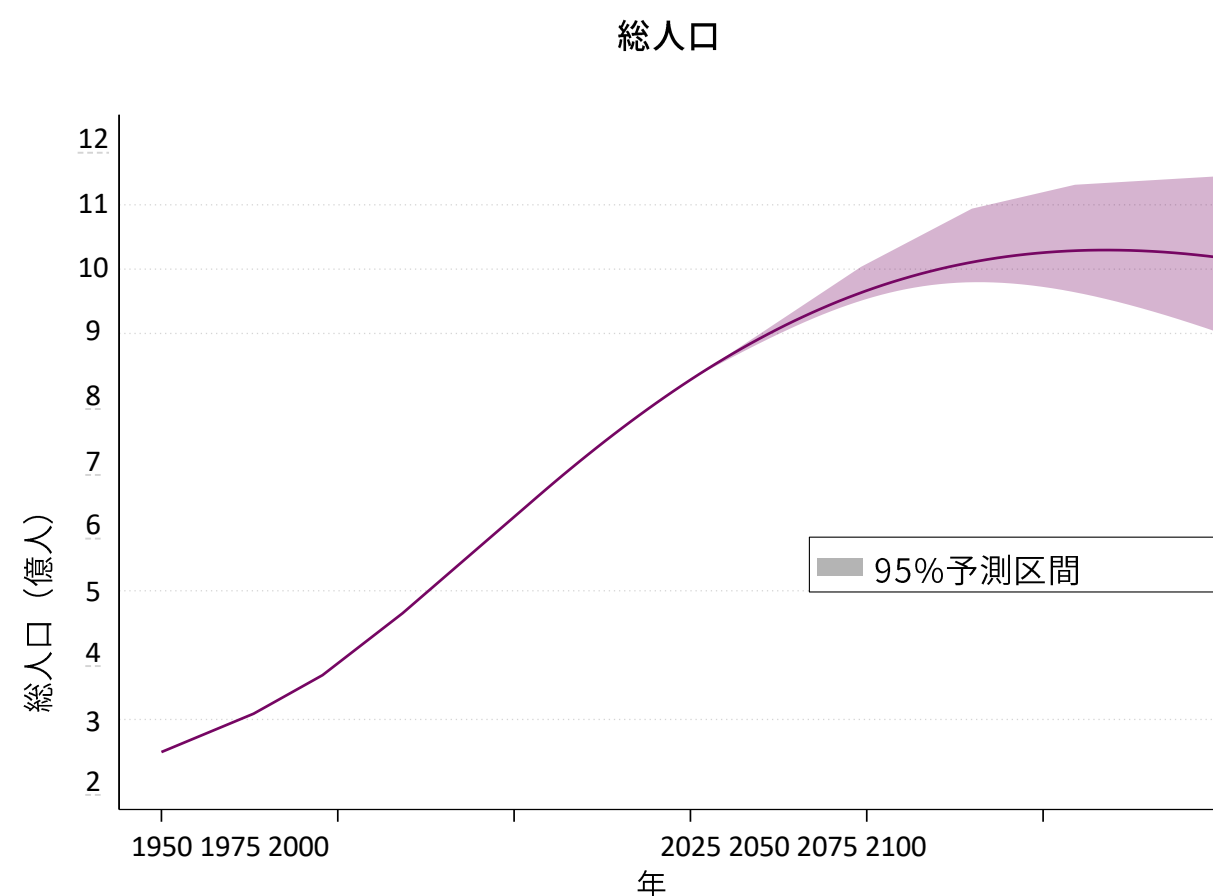
FOCUS ON

世界の高齢化は今世紀どう進展するか

World Population Prospects 2024¹によると、世界人口は2080年代半ばまで増加を続け、とりわけ65歳以上の高齢者層は急速に増加していきます。これは、平均寿命の伸長が出生率低下を上回り続けるために起こります。




世界人口 (1950-2100)



1. 出典：国連「2024年世界人口見通し」

気候変動の緩和への投資は健康向上にも寄与する



ニルス・ライヒ 
アクサグローバルヘルス
チーフ・エグゼクティブ・
オフィサー

「気候変動の進行は、疫病のパターンも変化させるでしょう。医療面でも新たな課題に備える必要があります。アクサは、科学およびグローバルなパートナーシップを通じて、この課題に積極的に取り組んでいます。こうした取り組みは、すべての人々の、より健康的で持続可能な未来への原動力になります。皆が協力すれば、変革をもたらすことができるのです。」

社会の高齢化と気候変動は医療費の負担増加につながります。

これらの課題に包括的に取り組む上では、気候変動の影響を緩和するための投資から得られる健康上のメリットを強調することが重要です。

気候変動は、熱波などの異常気象が特定の病原体媒介疾患の繁殖範囲を拡大させることで健康に影響を及ぼします。

感染症やパンデミックを自身のトップ5のリスクに挙げた専門家の31%と一般市民の20%が、感染症のパターンが変化しつつあることに警戒していると回答しています。



LIVE

「健康に関する知識を深め、行動を変容させることで、非感染症疾患に対処していきたい」

ララ・ドゥガス教授 
アクサ非感染症疾患疫学チエア

研究で明らかになった非感染症疾患（NCD）流行の主要要因について教えてください。

ララ・ドゥガス：

私の研究は、支援を必要とするアフリカ系住民の肥満や2型糖尿病などの非感染症疾患の問題にフォーカスしています。

急速な経済発展と都市化により、これらの疾患は現在、世界のすべての地域、特に人口構造が大きな変換期を迎えている地域に、多大な影響を与えています。これらの疾患は世界中で最も多くの死をもたらす主な原因ともなっています。

私たちの研究では、非感染症疾患流行の主な要因を3つ特定しました。まず、栄養の変化で、特に超加工食品や砂糖を含む甘味飲料の摂取が挙げられます。次に気候変動が挙げられ、暑さによる睡眠障害が問題となっています。最後に、資源不足による医療サービスへのアクセスの制約があります。

この世界的な健康問題に取り組む上で、なぜ意識向上や行動変容が重要なのですか？

ララ・ドゥガス： これらの問題に対処するには、個人、コミュニティ、社会全体を対象とした包括的な解決策が必要です。健康的な食品をさらに普及させ、食品表示と課税政策の実施、気候変動の影響を緩和する革新的な解決策の開発、社会環境に配慮した医療サービスへのアプローチの採用などが考えられます。

アクサリサーチファンドの基礎研究の基金は本取組みをどのように支援していますか？

ララ・ドゥガス： まずは非感染症疾患に関する知識を高めること、そして行動を起こすことが重要です。アクサリサーチファンドは、主要なリスク分野の基礎研究を支援し、科学に基づいた情報発信や官民の政策の意思決定を可能にします。これにより、新興のリスクを学際的に探求する取組みを強化することができるほか、科学的知見を広く普及させるための革新的な仕組みを研究に導入することができるのです。



公的機関は気候変動と人口構造の変化に備えているか



パトリア・プラス ✨
パブリックアフェアーズ
ヘッド

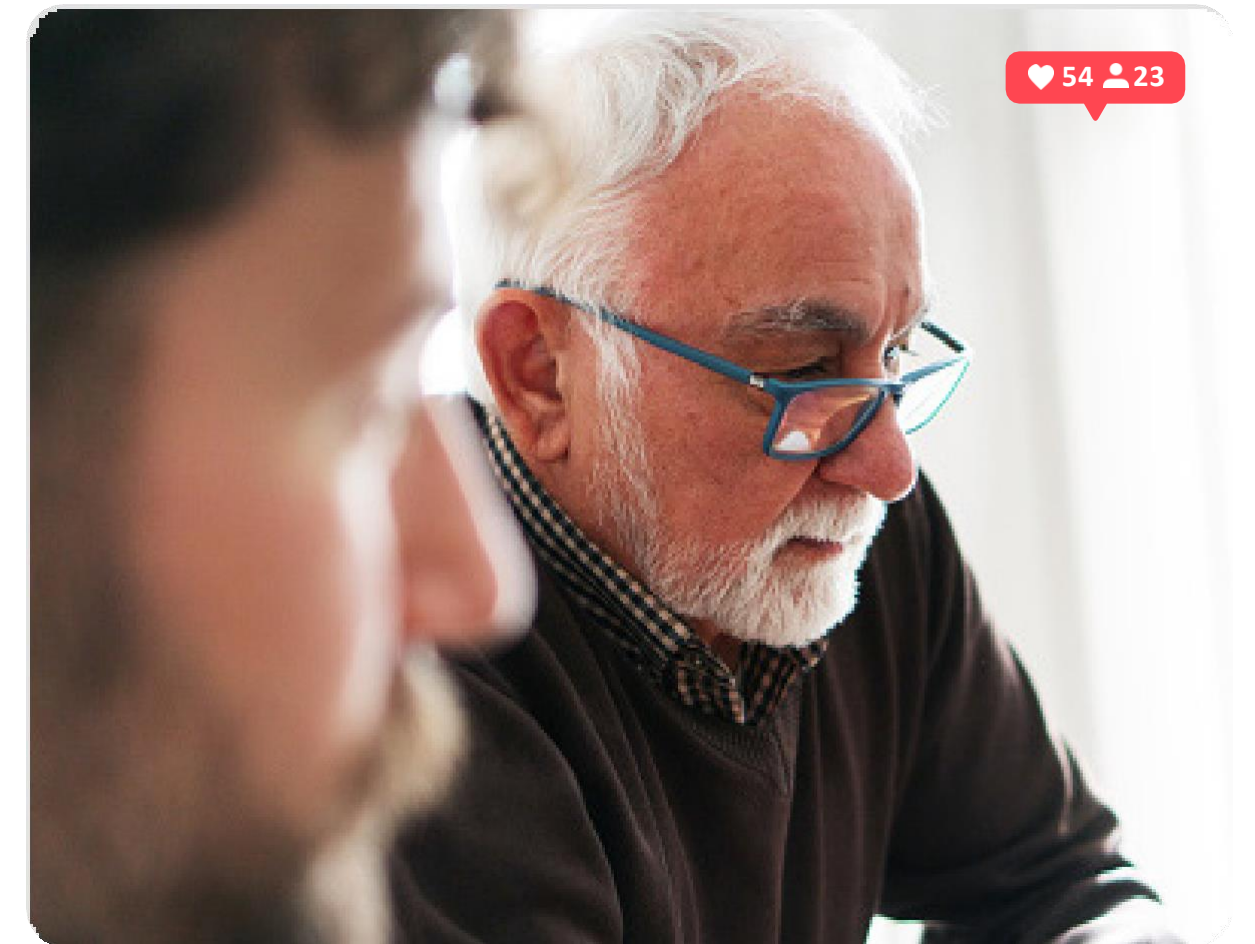
「異常気象が頻発する中、その影響を緩和するためには官民の協力とパートナーシップのさらなる強化が必要です。このような連携は、財政的なものにとどまらず、包括的なリスク管理、予防、緩和戦略なども対象とすべきです。保険業界は、こうした分野で専門知識を提供する準備ができています。こうしたパートナーシップを通じてこそ、異常気象の影響を効果的に軽減することができるのです。」

気候変動や人口構造の変化に対して、公的機関は十分に備えていると考える専門家はわずか14%に過ぎません。

このようなリスクに対応するために、当局が取るべき最も重要な行動について尋ねたところ、気候変動の予防と緩和への投資との回答が最も多くなりました。

また、人口構造の変化については、政策決定に関与するステークホルダーの意識改革とエンゲージメントの向上が必要だとする回答が最も多く挙がりました。

アクサは、気候移行を促進するためにお客さまやパートナーと協力しながら、革新的なグリーンソリューションの開発、再生可能エネルギーや持続可能なモビリティの促進を支援しています。より持続可能で環境に配慮した未来に向けてイニシアチブを取ることは、アクサとそのステークホルダーだけでなく、より広範な国際社会に対する貢献につながります。



3 地政学的不安定性

社会的緊張と安全保障上の脅威が新たなリスクの連鎖を形成

私たちは、ますます複雑化し多極化する世界に生きています。国家間の緊張は高まりつつあり、多くの場合、新たな安全保障上の脅威と交錯し、社会の緊張を一層高めています。2024年は、世界人口の約半数にあたる約70カ国で国政選挙が控えており、社会がさらに分断し不安定化する可能性があります。



インタビュー

分断された世界は、 グローバル企業に 高い機敏性を求めている



ジル・モエック
アクサグループ
チーフエコノミスト

「グローバル企業は、コストや市場へのアクセスの良さに加えて、政治的な要因も考慮して生産拠点を決定する必要があります。取引が突然止まるリスクを最小限に抑えるために、地理的に多様なサプライヤーを確保することも検討しなければなりません。」

ジル・モエック

地政学的不安定性は、消費者、企業、国家にどのような経済的影響を与えていますか？

ジル・モエック：冷戦時代は、東西のブロック化が地政学的不安定性を引き起こしたものの、経済への影響はほとんどありませんでした。対照的に、現在の米国と中国の緊張関係がもたらす影響は甚大といえるでしょう。地政学的不安定性は、例えば金融問題など、世界的な規制の進展に向けた協力を妨げ、世界中で貿易障壁が復活しつつあります。

中国の国内需要は依然として低迷しているため、輸出は非常に重要です。しかしバイデン政権は、トランプ政権が課した関税を撤廃しておらず、米国では中国への警戒感が政治の枠を超えて広がっています。その結果、中国は他の市場に生産拠点を移していますが、そこでも関税を課されつつあります。例えば、EU委員会は中国製の電気自動車（BEV）に対して相殺関税を課しました。2024年6月にインドネシアが中国製品への関税引上げを決定したことは欧米ではほとんど注目されていませんが、貿易障壁の復活が単なる「南北問題」ではないとの重要なシグナルだと考えます。

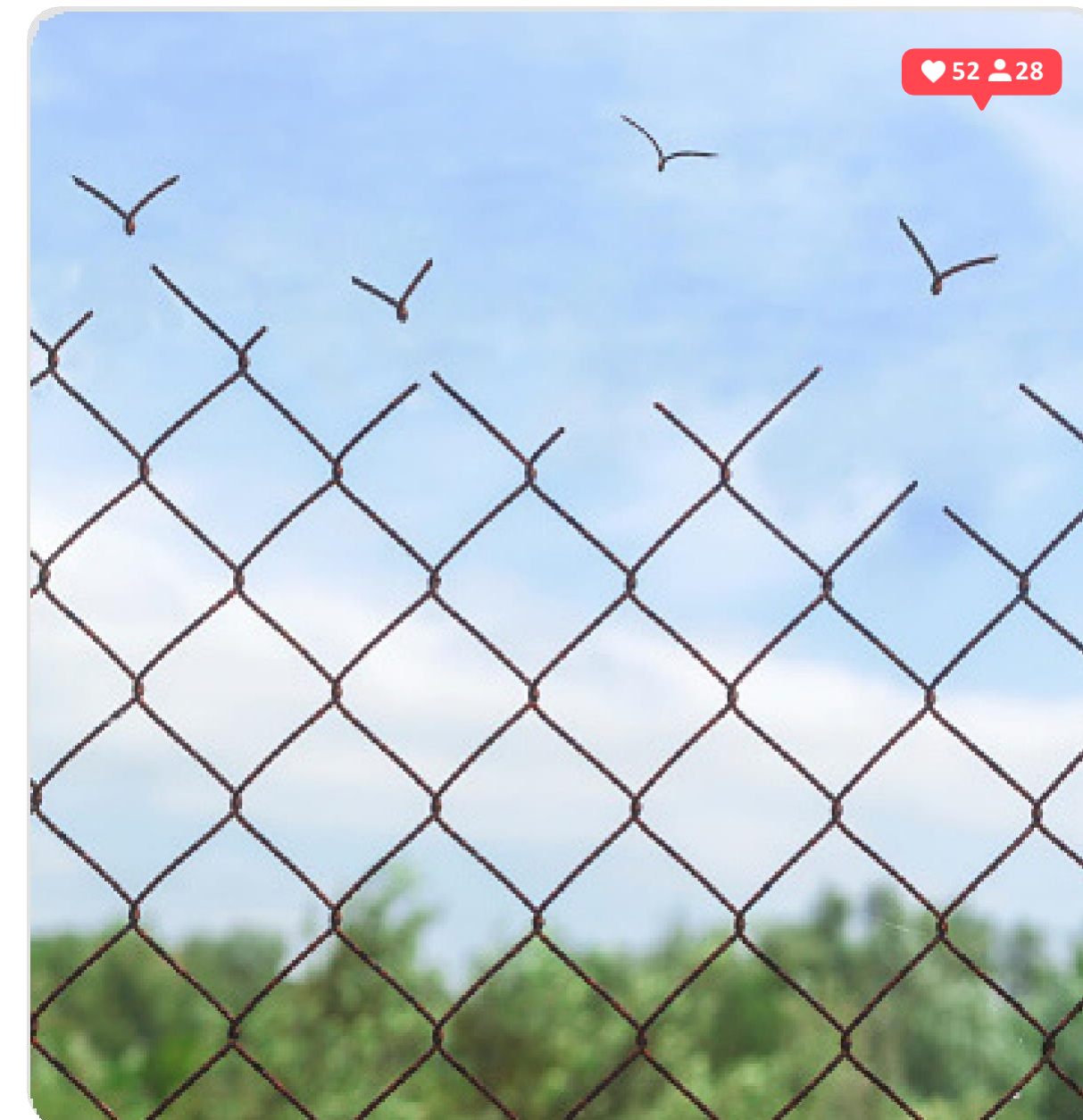
つまり、グローバル企業には、生産拠点の立地についてコストや市場へのアクセスの良さだけでなく、政治的な要因も考慮する必要がありますということ。また、取引が突然止まるリスクを最小限に抑えるため、地理的に多様なサプライヤーを確保することも検討しなければなりません。これにより、全体的な生産コストが上昇し、最終的には消費者にそのコストが転嫁されることとなります。関税の引き上げによる負担を最終的に負うのは消費者なのです。

重要な選挙イヤーであった2024年、政治運動は世界経済にどのような影響を与えていますか？

ジル・モエック：英国と欧州の選挙結果は心強いものでした。英国ではEUに友好的な政府が誕生しました。EUと英国の関係に劇的な制度変更が起こることは期待できませんが、政治的な収束がさらに進む可能性は高いと思われます。欧州では、選挙がブリュッセルの主流政治勢力の議題設定能力に劇的な変化をもたらしたわけではありませんでした。大きな不確実性は依然として米国の選挙にあります。ドナルド・トランプ氏は、米国への輸入関税を10%に引き上げ、中国には特別に60%の税率を課すことを主張しています。

現在私たちが経験している地政学的に不安定な時代は、新しい世界秩序の始まりを意味するのでしょうか？

ジル・モエック：世界のすべてのブロックに亀裂が生じており、明確に組織化された「世界秩序」という観点で考えるのは困難です。例えば、EUと米国の関係は、貿易問題や防衛費の負担を巡る論争によって緊張が高まっています。中国主導のグローバル・サウス構想は、インドと中国の対立といった加盟国同士の意見の相違や、南アフリカなどの深刻な経済状況を考慮すると、私たちの見解ではほとんど空虚な概念にすぎません。この分断された世界を進んでいくには、グローバル企業には非常に高い機敏性が求められるでしょう。



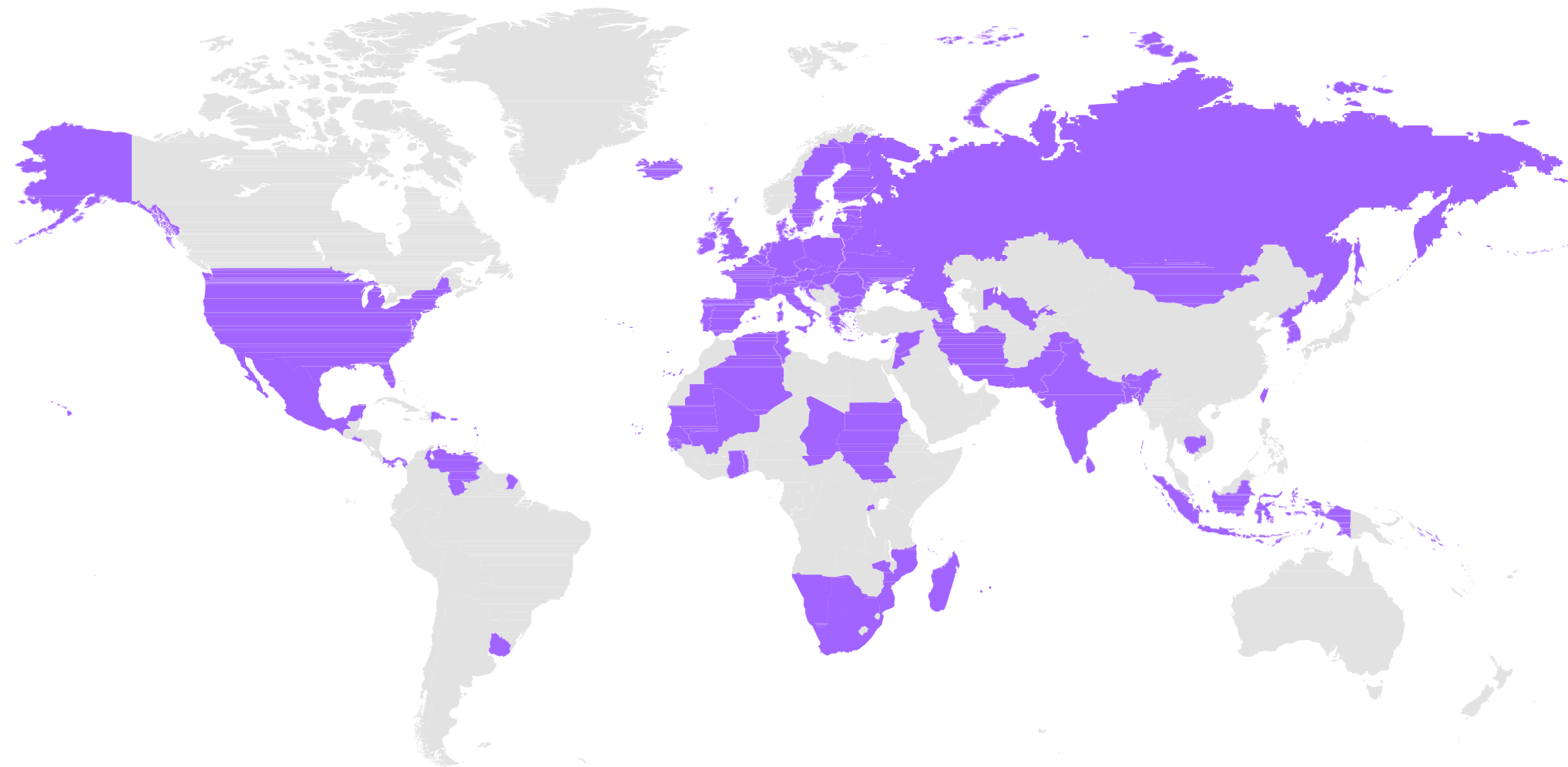
専門家と一般市民は 共に地政学的不安定 性に懸念を示してい る



昨年の調査以降、ウクライナ紛争は長期化し、中東では新たな危機が勃発しました。米国と中国の貿易摩擦が続く中、地政学的不安定性について、今年は専門家と一般市民の両方がさらなる懸念を示す傾向にあることは驚きではありません。専門家は全体で2位（昨年は3位）、一般市民は6位（昨年は9位）に挙げています。

2024年 世界で繰り広げられる究極の選挙イヤー

国政選挙は、少なくとも欧州連合（EU）および64カ国で予定、または予想されており、すべてを合わせると世界人口のほぼ半数の人々が投票を行うことになります。



出典2024年の世界各国の選挙、TIME

フォーカス

科学者への信頼は依然最も高く、軍や警察への信頼も高まる

この調査では毎年、専門家と一般市民に新たな世界規模の危機が発生した場合、その影響を緩和する能力について、市民社会、学术界、民間セクター、国際機関といった機関の信頼度を評価するよう尋ねています。

科学者は引き続き1位でした。 専門家の84%、一般市民の70%が、新たな世界規模の危機が発生した場合に、彼らの影響緩和能力に信頼を寄せてお

り、これは昨年の調査結果と同じ水準でした。

両グループは共に、軍や警察への期待を高めています。 専門家の74%が軍と警察を信頼しており、信頼度は昨年より6ポイント、3年間で10ポイント上昇しています。一般市民では68%となり、昨年より3ポイント、3年間で6ポイント上昇しました。



専門家と一般市民は共に、
地政学的不安定性に懸念を示している ↓

地政学的不安定性について最も懸念される点を尋ねたところ、専門家の52%と一般市民の50%が「軍事紛争の再燃」を挙げており、いずれも昨年の調査での42%から増加しています。一般市民の間では「核の脅威」が2位となりました。

専門家の間では「多国間主義の衰退とブロックの復活」は2位となり、「サプライチェーンの混乱」を上回りました。地政学リスクは、契約部、保険金請求、投資、オペレーション、サプライチェーン、サイバーセキュリティ、規制、および評判など、保

険会社にさまざまな影響を及ぼします。

地政学的不安定性の高まりは、将来のリスクには世界レベルで対応することが最も効果的な手段であるとの見解を示す人が減少している理由を説明するのに役立つかもしれません。

この見解は、専門家では47%、一般市民では48%が支持していますが、昨年の調査ではそれぞれ54%、52%でした。理論上は効果的で、世界的なアプローチが望ましいとしても、実際にはより困難になっています。



米国の専門家は、特に地政学的不安定性に懸念を示しています。日常生活においてこのリスクへの脆弱性を感じているか尋ねたところ、54%が「感じている」と回答しました。このリスクに適切に対応できるだけの準備が公的機関にあると考えている回答者は、わずか16%でした。



LIVE

「政治リスクは伝統的に、制度が脆弱な発展途上国と結びついていました」

ラファエル・ドカボ＝マルベッツィ
アクサXL 政治リスク・信用・債券保険部門
グローバルチーフ・アンダーライティング・オフィサー

政治リスクとはどのようなものだとお考えですか？アクサの政治リスクの専門家として、どのような役割を担っていますか？

ラファエル・ドカボ＝マルベッツィ：政治リスクとは、規制の変更、国有化、内乱、武力紛争、制裁による潜在的な損失や混乱を指します。私は、こうしたリスクを評価し、お客さまがリスクを軽減できるよう支援する役割を担っています。

近年、特に新しいテクノロジーによって政治リスクはどのように変化していますか？

ラファエル・ドカボ＝マルベッツィ：政治リスクは伝統的に、制度が脆弱な発展途上国と結びついていました。しかし、内戦や政策の不確実性は、民主主義が確立された国家においても高まっています。ソーシャルメディア、生成AI、ディープフェイクテクノロジー

一の発展により、虚偽情報の拡散が容易になり、世論が操作され、脅威の速度、規模、複雑性は増幅しています。

アクサのような企業が政治リスクを予測し、回避するためのツールにはどのようなものがありますか？

ラファエル・ドカボ＝マルベッツィ：私たちは、リスク評価ツールや高度な分析手法、グローバルな情報ネットワークを活用しています。また、危機管理、海洋、航空宇宙、サイバーの各分野の専門家と協力して政治リスクへの理解を深めています。社内では、アクサのリスクガバナンスに役立つ知見を提供すると共に、保険ソリューションでは、予測困難な政治的事象から企業を守る支援を行っています。



公的機関は、社会的緊張の高まりに対する対応能力への信頼を構築する必要がある

専門家の間では今年、社会的緊張と社会運動が5位となり、昨年の8位から上昇しました。一方、一般市民の間では4位となり、昨年から変化はありませんでした。どちらも特に欧州の回答者は懸念を示しており、専門家では4位、一般市民では3位となりました。これは、ウクライナや中東での紛争の影響を反映していることが考えられます。

公的機関が社会的緊張や社会運動に対して十分な備えができていると考える専門家の割合はわずか13%であるのに対し、一般市民は32%でした。

一般市民は、公的機関のリスクへの備えに対して専門家よりも高い信頼を示していますが、これは一般市民が評価する準備レベルに対する回答の中で、気候変動やAI、ビッグデータと並び最も低い評価となりました。

社会的緊張が暴力的な抗議行動に発展するリスクは、誤情報の影響が拡大することでさらに悪化しています。(以下セクション4で詳述します。)

今年新たに設けた質問では、自国で今後行われる選挙後に、意図的に流された誤情報を信じた人々による暴力的な抗議活動が起こる可能性について尋ねたところ、専門家(62%)と一般市民(69%)の大多数が「その可能性は大きい」と回答しました。特に米国(それぞれ90%、85%)ではそのリスクが特に高いと認識されていることが明らかになりました。

フォーカス

何が社会的緊張と社会運動への懸念を駆り立ててるのか？

社会的緊張と社会運動を上位5つのリスクとして挙げた回答者に、特に懸念されるリスクを1つ尋ねたところ、専門家は「制度の破綻と民主主義の衰退」を最も多く挙げ、一般市民は「格差の拡大と生活費の高騰」を挙げました。昨年よりも社会的暴力を挙げた専門家は増加し、大規模な移民への懸念は両グループの間で高まっています。

	専門家	一般市民
1	制度の破綻と民主主義の衰退	格差の拡大と生活費の高騰による危機
2	格差の拡大と生活費の高騰による危機	制度の破綻と民主主義の衰退
3	社会的な暴力(暴動など)	大規模な移民



若年層にフォーカス

格差拡大と生活費の高騰が抗議行動を後押し

調査では、25歳未満の回答者は、社会的緊張と社会運動を全体の2位に挙げたのに対し、全体では4位となりました。このリスクを選んだ理由を尋ねた際、若年層は高齢層よりも、格差の拡大や生活費の高騰を挙げる傾向が強く見られました。

この結果は、若年層が民主主義制度に異議を唱えていることを示す他の調査結果¹とも一致しています。民主主義を他の統治形態よりも好むと答えた18歳から35歳の若年層は57%にとどまったのに対し、56歳以上の高齢層では71%に達しました。ユニセフの最近の報

告書「若者、抗議行動、そして多発する危機」²では、若年層が政党への参加や投票といった従来の市民参加の形態から離れつつあることが指摘されています。彼らは、抗議活動やオンライン活動など、より直接的で非公式なテクノロジーを活用したアプローチを好むようになってきています。

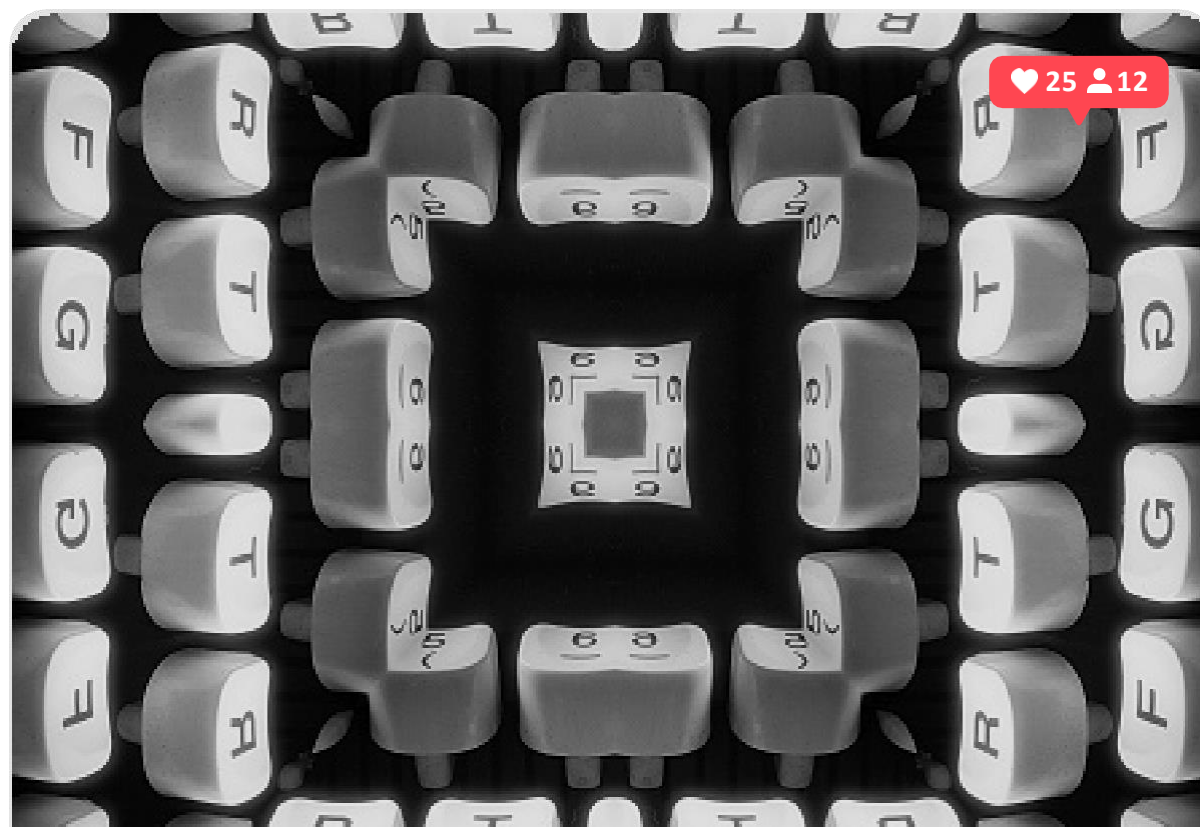


技術革新は新たな 安全保障上の脅威 を生み出す

今年の調査では、新たな安全保障上の脅威とテロリズムの順位が大幅に上昇しました。

専門家はこのリスクを8位と評価し、昨年の16位から順位を上げています。このリスクが徐々に、または急速に高まっていると考えるか、あるいはすでに高まっていると考えるかの質問に対して、「すでに高まっている」と回答した専門家は、昨年の4分の1から今年は3分の1に増加しました。

一般市民は常に、新たな安全保障上の脅威とテロリズムを専門家よりも上位に位置付けています。今年も同様の傾向が見られ、このリスクは2位となり、昨年の6位から順位を上げました。このリスクについて最も懸念される点を尋ねたところ、地域によって回答が異なりました。アフリカとアメリカでは「大量殺人および銃乱射事件」が、欧州では「進化するテロの形態」が最も多く挙げられました。日本では「新しい技術（3Dプリンターやドローンなど）の悪用」と回答した人が多くなりました。



LIVE

「アクサでは、セキュリティは単なる技術的な機能ではなく、戦略上不可欠なものと考えています。」

アルノー・タンギー

アクサグループ チーフセキュリティオフィサー

進化するリスクはセキュリティにどのような影響を及ぼしますか？

アルノー・タンギー：

私はチーフセキュリティオフィサーとして、地政学的な変化や紛争から気候変動や社会不安に至るまで、さまざまな要因がセキュリティリスクを増幅しているのを目の当たりにしています。リスクはますます相互に結びつき、巧妙化しています。ハッカーはさらにプロフェッショナル化する一方で、名声を求めたり政治的な動機に基づいて行動する傾向も強まっています。

AIの悪用は、新たなレベルの脅威を生んでいます。例えば、ランサムウェアのリスクは大幅に増加しており、2023年にはハッカーに支払われた金額は、2022年のほぼ2倍となる11億ドルに達しました。¹ 特に医療分野が大きな影響を受けています。

進化するリスク環境において、アクサはどのような役割を果たすことができるでしょうか？

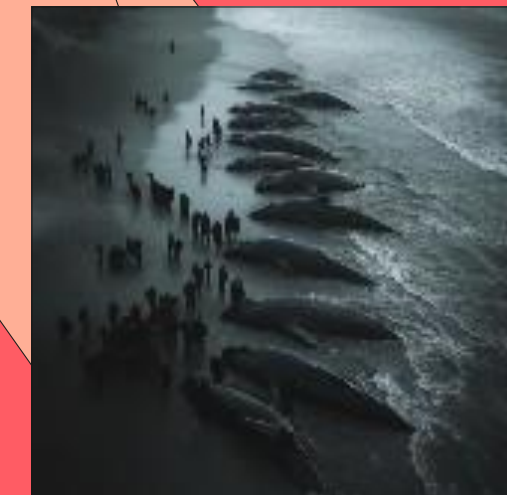
アルノー・タンギー：アクサは、セキュリティを単なる技術的な機能ではなく、戦略的に不可欠なものと考えています。セキュリティの専門家は、個人や組織が新たなリスクを予測し、軽減するためのツールや知識を備えることができるよう、積極的かつ協調的なアプローチを採用する必要があります。アクサは自社のセキュリティ基盤を継続的に強化すると共に、特にフランスのキャンパス・サイバーへの参加を通じて、強固なパートナーシップのエコシステムの育成に取り組んでいます。私たちには、セキュリティへのアプローチを再構築する前例のない機会があります。共通の課題に対処するために、ベストプラクティスを共有し、集団の専門知識を活用することが可能です。積極的かつ機敏に協調して取り組むことで、これらの課題を乗り越え、これまで以上に強固な企業になることができると確信しています。



1.出典：Fisher Phillips

4 AIによる誤情報が 民主主義に対する 新たな脅威に

意図的に誤解を招くことを目的とした「偽情報」と、誤って信じた情報を広めてしまう「誤情報」は、人類の歴史と同じくらい古いものです。しかし、テクノロジーの進化は、その潜在的な影響を劇的に拡大しています。今年の調査では、この問題に対する専門家と一般市民の認識を調査するために、新たな質問を設定しました。

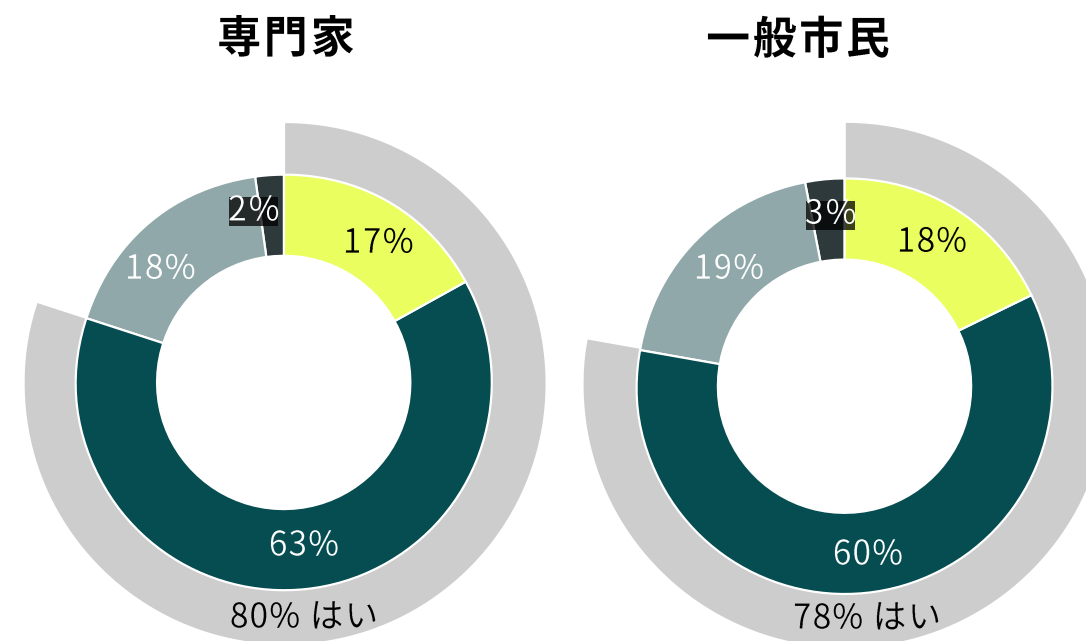


多くの人は、自分が誤情報を見抜く能力を過信している

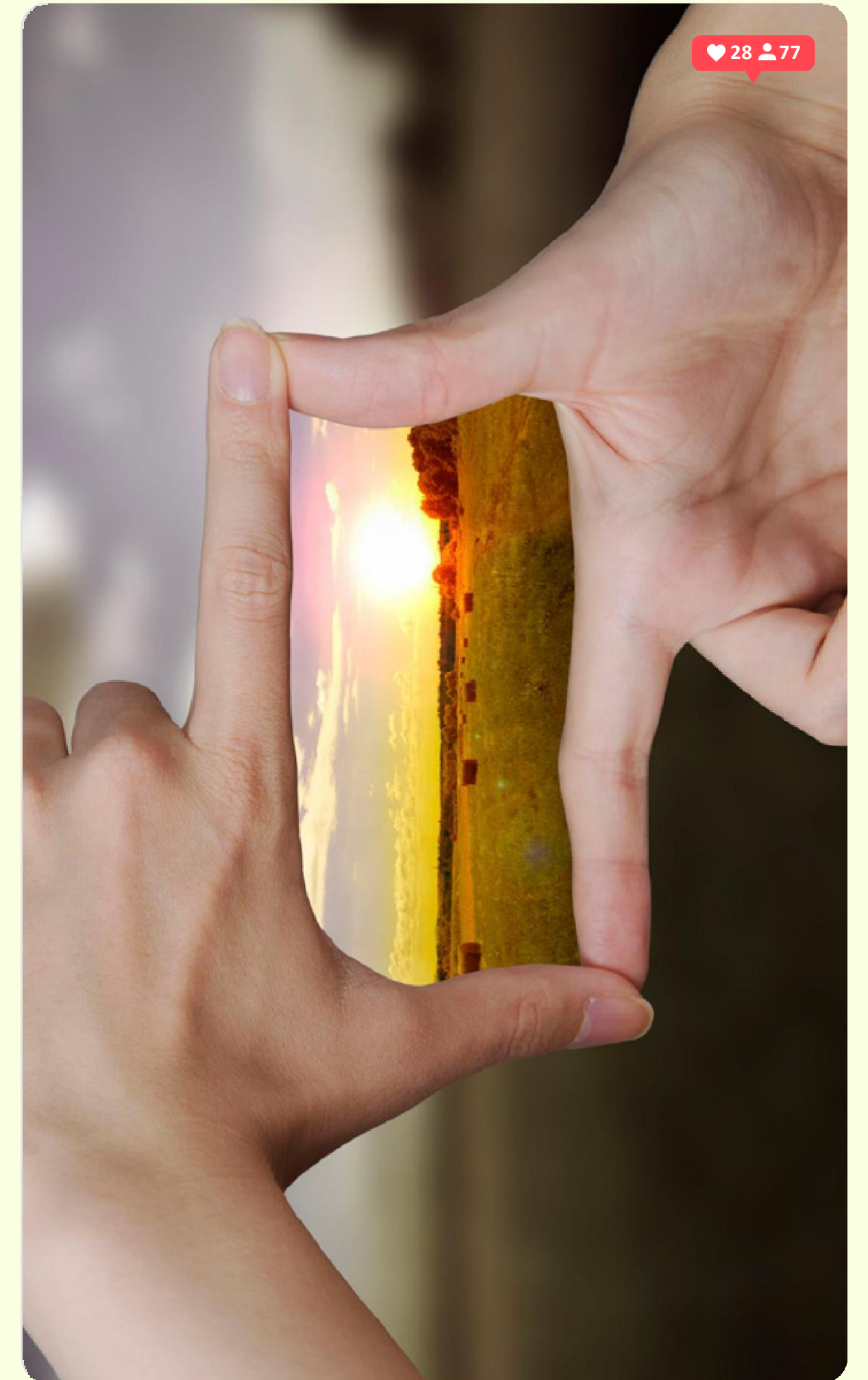
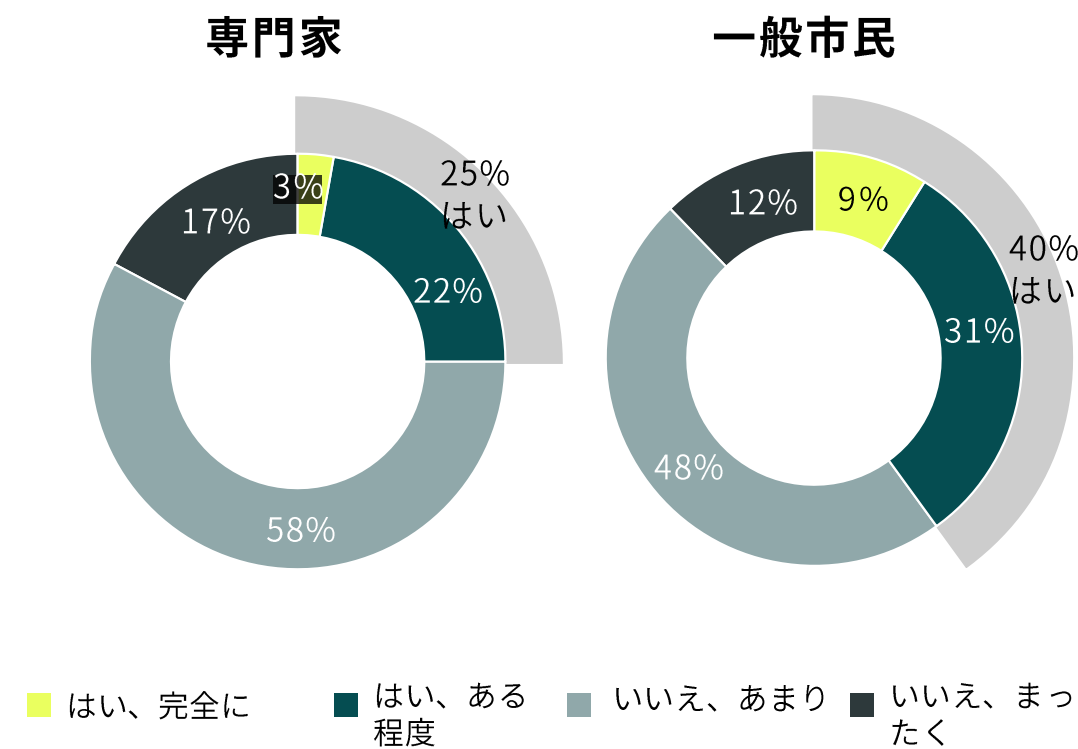


調査では、誤情報を見抜く際に自分自身の能力を周り比べて過大評価する傾向がある「レイク・ウォビゴン効果」が見られることが明らかになりました。専門家の80%と一般市民の78%が、ソーシャルメディア上で真偽を見極める能力があると自信を示しました。しかし、他の人々も同様の能力を持っていると思うかと尋ねたところ、「持っている」と回答したのは専門家の25%、一般市民の40%にとどまりました。誤情報の影響の深刻さを考慮すると、自身の潜在的な弱点を見逃す傾向は、さらなる懸念材料といえます。

あなたは誤情報を見抜くことができますか？



一般的に人々は、誤情報を見抜くことができますか？



偽情報は、前例のないレベルにまで達している



デビッド・コロン
パリ科学大学教授・研究員

「戦略的に仕組まれたフェイクニュースは、内部から民主主義体制を弱体化するために、社会の分断を助長し、不信感を煽り、市民や組織の真実と虚偽を見分ける能力を損ないます」

デビッド・コロン

著書『The Information War』では、フェイクニュースがいかに戦争の武器として利用されているかが語られています。

デビッド・コロン：冷戦終結以降、情報空間は民主主義体制と権威主義体制の間で重要な戦場となっています。前者は情報の自由な世界的流通を進歩の手段と捉える一方、後者はそれを存続への脅威と捉えます。戦略的に利用されたフェイクニュースは、社会の分断を助長し、不信感を煽り、市民や組織の真実と虚偽を見分ける能力を損なうことで、民主主義体制を内部から弱体化させることを目的としています。

「グローバルなサイバー戦争」という表現が使われていますが、新しいデジタルツールの登場により、誤情報はどのように進化したとお考えですか？

デビッド・コロン：スマートフォン、ソーシャルメディア、人工知能の登場により、偽情報の規模と影響力はかつてないレベルに達しました。広告収入の最大化に専念する大手オンラインプラットフォームのビジネスモデルは、フェイクニュースや陰謀論の拡散を助長してきました。また、多くの企業がプログラマティック広告を利用することで、知らず知らずのうちに信頼性の低いウェブサイトを頻繁に資金援助しているという問題もあります。インフルエンサー、アルゴリズム、デジタル群衆が交差する今日、私たちの情報空間はこれまで以上に不安定になっています。



フェイクニュースに対抗する効果的な方法はありますか？高まる危機に直面して私たちはレジリエントでいられると思いますか？

デビッド・コロン：これらの問題について認識を高め、対策を講じることで一定の進展が見られました。フランスは2019年に「情報と民主主義のパートナーシップ」を立ち上げ、外国勢力によるデジタル干渉を検出するヴィジナム機関を設立し、最近では国外からの干渉に対抗する法案を可決するなど率先して模範を示しています。EUデジタルサービス法は欧州にとって大きな前進であり、OECDの重要な報告書「Facts not Fakes」¹は、国際的な情報空間の倫理性を保護するために、実用的な提言を行っています。この課題に取り組む前提であれば、私たちの社会のレジリエンスに疑いはありません。特に企業は、この問題に対して企業民主的な責任があります。

ブラジル最高裁判所は最近、「フェイクニュース対策」としてブラジル国内のXを排除しました。民主主義と表現の自由は共存できるのでしょうか？

デビッド・コロン：私の見解では、そのような対策は効果的ではありません。ブラジルでのメディアプラットフォームの停止は、Xによって回避されました。2022年に欧州委員会がロシア・トゥデー（RT）の放送停止を決定した際も同様に回避されました。こうした対策は、表現の自由に対する攻撃のように見えるため、逆効果です。私たちの民主主義はフェイクニュースに対抗するために、表現や意見の自由、情報を得る自由を制限しようとしすぎてしまいます。私は他の研究者たちと共に、コンテンツの内容ではなく、コンテンツの拡散方法を規制するアプローチを提唱しています。悪意のある発言をすること自体は一つの問題ですが、それを即座に公にすることは、また別の問題です。レネー・ディレストが述べたように、「言論の自由は拡散の自由ではない」と言えます。

1.出典OECD

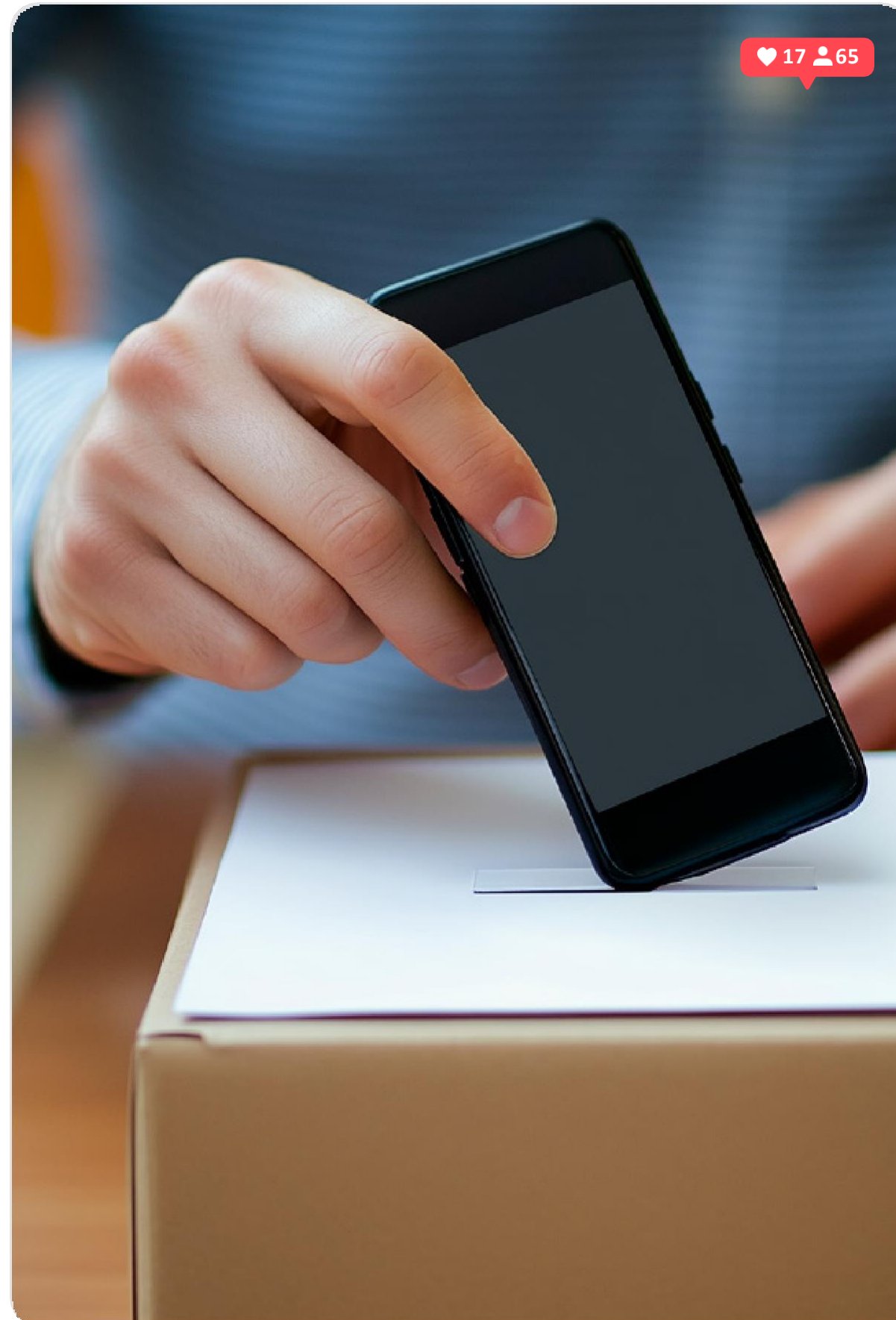
誤情報が投票に影響を与え、選挙結果が覆される可能性がある

2024年の国政選挙では世界人口の約半数の人々が投票することが見込まれます。今年の調査では、誤情報が選挙に与える潜在的な影響への懸念を把握することを目的としました。専門家の90%と一般市民の83%が、今後行われる選挙において、ソーシャルネットワーク上の誤情報を利用して投票に影響を与えようとする試みがあると予想しています。

また、専門家の66%、一般市民の69%が、誤情報により選挙結果が覆されるという重大な危機に立たされる可能性があるという回答しています。

88%

より広い意味では、専門家の88%と一般市民の78%が、誤情報が政治機関の機能に深刻な影響を及ぼすと認識しています。



フォーカス

アジアは、他の地域と比べて誤情報の発信が際立っている

アジアの専門家は、他地域の専門家に比べ、一般市民の真偽を見分ける能力について自信を持っているようです（アジアの専門家は38%、欧州は22%、アメリカは18%、アフリカでは9%）。注目すべきは、日本の一般市民は謙虚で、自分たちがそのような能力を持っていると考える割合が50%と、世界平均の78%と比較して低いことです。

また、誤情報による最も深刻な影響についても認識に違いが見られます。アジア以外の地域は「暴力と憎悪」を挙げる傾向が強い一方、アジアでは専門家は「政治制度の機能」、一

般市民は「財産と人々の安全」を最も多く挙げています。最後に、他の大陸の専門家に比べてアジアの専門家は、表現の自由の保護よりも誤情報の抑制を優先すべきと考える傾向が高いことが明らかになりました（欧州で56%、アメリカで54%のところ、アジアでは70%）。また、一時的なインターネット規制などの政府による措置を支持する傾向も強いことがわかりました（欧州の57%、アメリカの51%に対してアジアでは71%）。



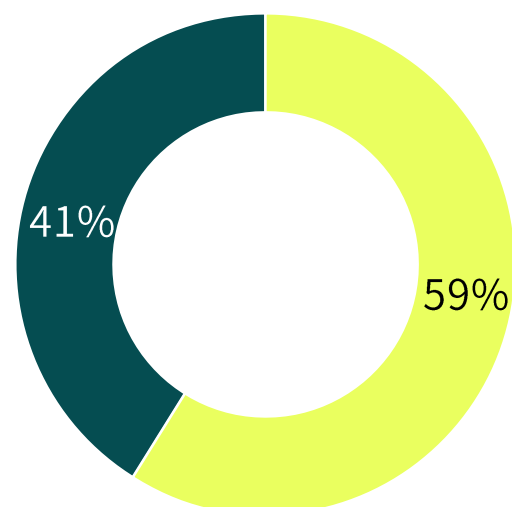
人々は政府に、誤情報への対策を望んでいる

調査では、誤情報の対策として効果があると期待される5つのアイデアを提示し、それぞれについて賛成か反対かを尋ねたところ、学校でソーシャルメディア・リテラシーを教え、子供たちが事実を確認する手段や独自の意見を形成する方法を学ぶという提案が、最も多くの支持を集めました（専門家の96%、一般市民の88%）。

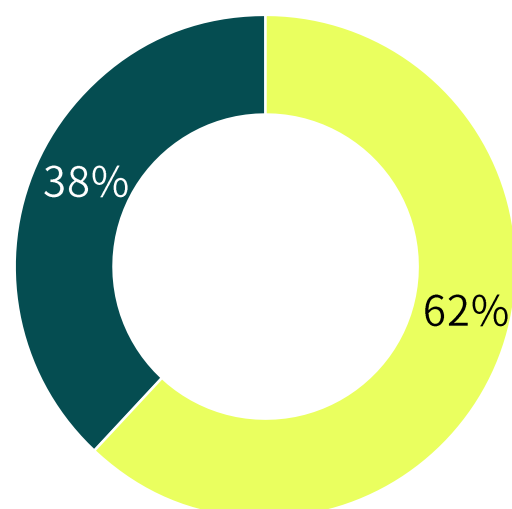


誤情報およびフェイクニュースに対するスタンスに関する意見

専門家



一般市民



- 最も重要なことは、たとえ言論の自由が制限されても、誤情報やフェイクニュースが拡散し市民に影響を与えないようにすることだ
- 最も重要なことは、たとえ誤情報やフェイクニュースがより容易に拡散する可能性があるとしても、すべての市民の表現の自由を保証することだ

59%

専門家の59%、一般市民の70%が、政府が行う誤情報への対策としてインターネットの一時的規制や、危機的状況下におけるコンテンツの直接削除などの介入を支持しています。

次に多かったのは、フェイクニュースを拡散した人々に責任を問い、誤情報を罰すること（専門家の91%、一般市民の87%が支持）、およびプラットフォームに対してより厳格なルールと罰則を適用すること（専門家の90%、一般市民の85%）でした。最も議論を呼んだアイデアは、危機的状況下におけるインターネットの一時的

な規制やコンテンツの直接削除といった政府の介入であり、専門家では59%、一般市民では70%が支持しています。各国の一般市民の大多数が賛成を表明しており、スイスでは62%、中国では89%が支持しています。



AIは誤情報を加速させるが、対処する一助にもなり得る



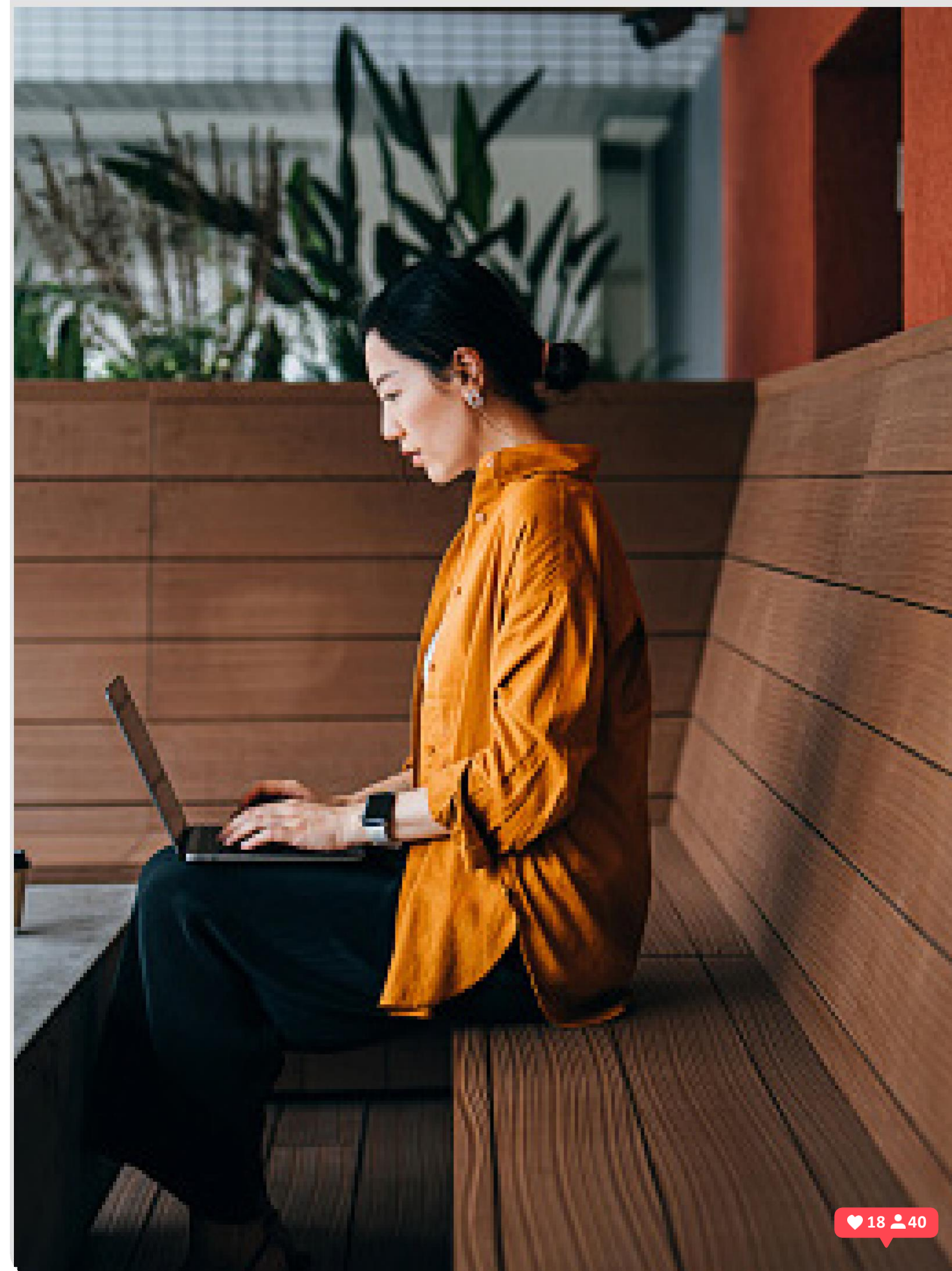
生成AIにより、ボットがオリジナルのように見え、本物の人間が投稿したものと見分けが付きにくいコンテンツを公開することが可能になります。AIはまた、ターゲットとするオーディエンスに対して、膨大な量の偽情報の拡散も容易にします。

世界中の政府は、最善の対応策を模索しています。

AIはフェイクニュースの問題を悪化させる一方で、解決策の一助にもなり得ます。専門家の82%、一般市民の75%が、AIを使用してフェイクニュースを特定し、対策を講じることが、誤情報の拡散防止に役立つと考えています。研究者たちは現在、他のアプローチと組み合わせながら透明性を向上させるツールの開発に取り組んでいます。



専門家の82%、一般市民の75%が、AIを使用してフェイクニュースを特定し、対策を講じることが、誤情報の拡散防止に役立つと考えています。



5 フューチャーリスク と予防戦略

今年新たに設定した質問で、最も懸念される危機を想定した際に、強力な予防措置によって回避が可能と考えるか尋ねたところ、専門家の88%と一般市民の84%が「回避は可能」と回答しました。



専門家は、一般市民の意識と当局の準備態勢は両方改善の余地があると指摘

リスクを未然に防止するには、公的機関はリスクに備え、一般市民はそれを認識する必要があります。

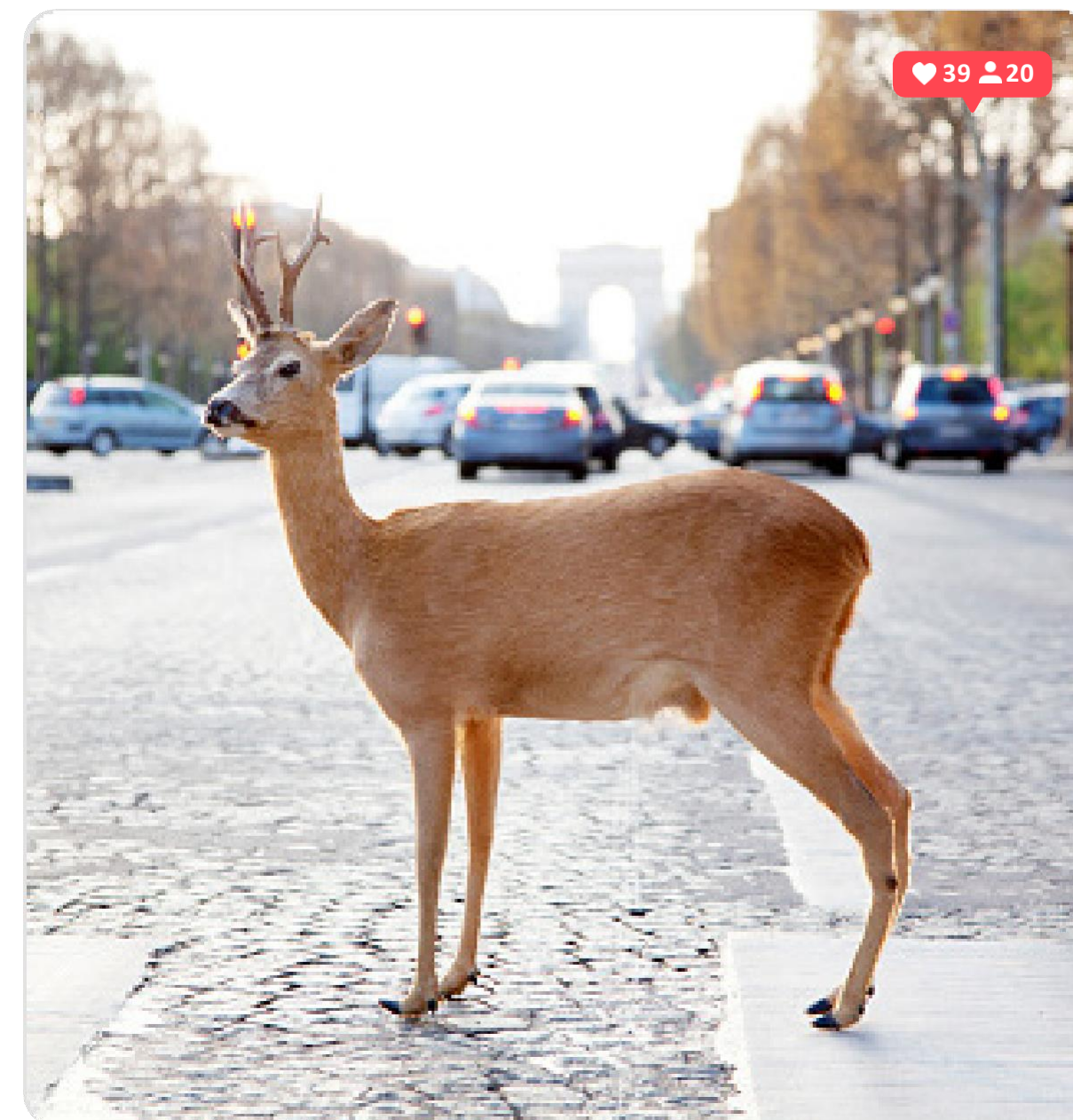
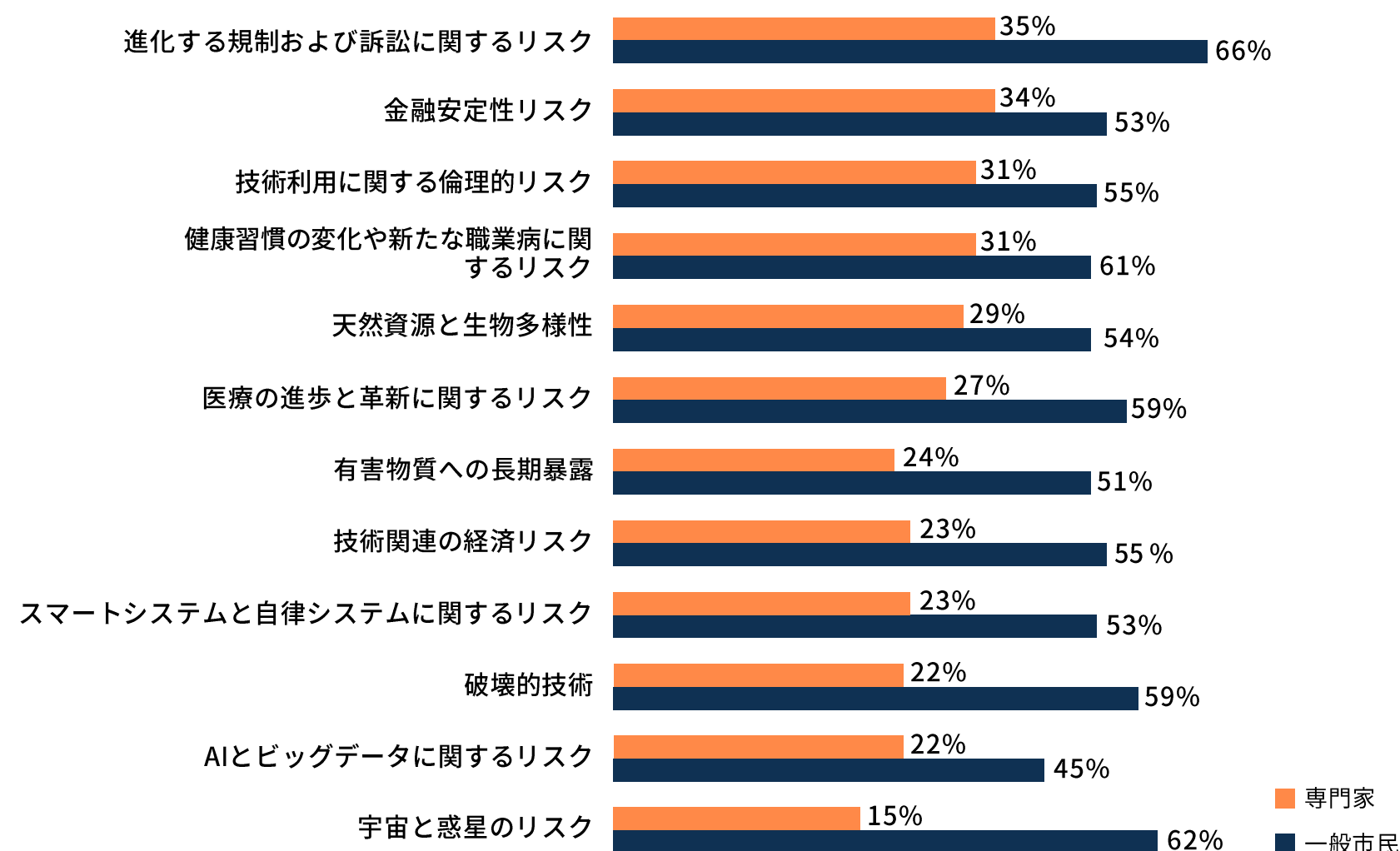
いずれの場合も、一般市民よりも専門家の方が「やるべきことは多い」と考える傾向が明らかになりました。

調査では、専門家が選択した上位5つのリスクについて、一般市民がどの程度認識しているか尋ねたところ、サンプルに挙げたリスク25項目すべてにおいて、一般市民に比べ専門家の方が、人々はリスクを十分に認識していないと回答する傾向が強いことがわかりました。

気候変動と地政学的不安定性の2つのリスクに限っては、大多数の専門家は、一般市民は認識しているとの見解を示しました。

リスク25項目のうち23項目について、一般市民がこれらのリスクを認識していると考える専門家は少数だった

そのリスクをトップ5に選んだ人の選択の割合：「現在の知識に基づいて、この未来のリスクについて一般市民は認識していると思いますか」



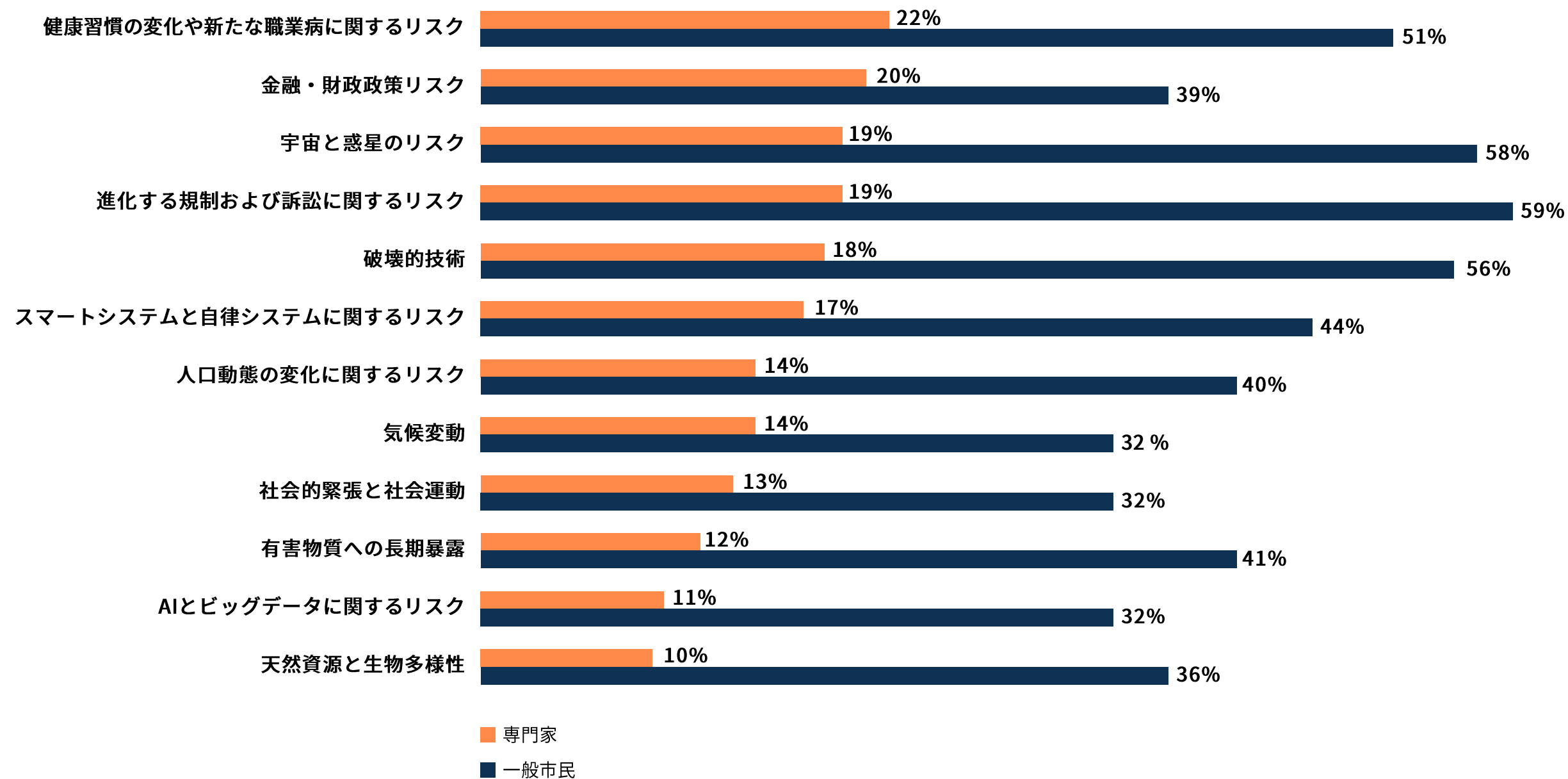
専門家は、一般市民の意識と当局の準備態勢は両方改善の余地があると指摘 ↓

同様に、「このリスクの発生に対して、公的機関は十分な備えができていますか？」と尋ねたところ、専門家は一般市民よりもはるかに悲観的でした。すべてのリスクにおいて、一般市民の最低のスコア（32%）は、専門家が評価した最高のスコア（27%）よりも高い結果となりました。

一般市民は、当局のリスクへの準備態勢を全体的に信頼しており、その評価は昨年調査と比べて平均で1.5ポイント上昇しています。専門家は、全体的に変化はほとんど見られませんでした。欧米の専門家は、アジア太平洋地域の専門家よりも、当局の準備態勢を厳しく評価する傾向が見られます。

将来のリスクに対する公的機関の準備態勢

「公的機関はこのリスクの発生に対して十分に準備していると思いますか？」との質問に「準備している」と回答した専門家と一般市民の割合：



40

5-将来のリスクと予防戦略



インタビュー

保険の可能性が疑問視される現代では、イノベーションが鍵になる



ナンシー・ビューレー ✨
 アクサグループ
 チーフ・アンダーライティング・オフィサー

「データと分析は、私たちの企業文化の一部であり、戦略的な査定とリスクの意思決定の指針となっています。」

〇〇〇 ナンシー・ビューレー

保険商品のイノベーションは、気候変動に対する懸念をどのように解決できるでしょうか？

ナンシー・ビューレー：保険会社として、私たちの最優先事項は常に、お客さまのニーズや課題に応える保険を提供することです。そのために、新たなリスクや変化に適応し常に自己改革と改善を継続する必要があります。保険の可能性が疑問視される現代においては、イノベーションが鍵となります。

気候変動が自然災害の頻度と深刻さを増大させる中、過去のデータだけに基づいて将来のリスクを予測するという従来のアプローチから脱却する必要があります。例えば、アクサは最近、グローバルな環境情報企業であるKayros社と提携し、フランス法人顧客が山火事のリスクへの曝露度合いを把握できる新しいサービスを開始しました。このサービスでは、衛星画像を基に革新的な予測技術を使用し、20以上のリスク要因を組み合わせ、リスク管理やリスク移転のための意思決定をサポートします。

気候変動は、山火事で発生する煙が呼吸器疾患を悪化させたり、熱帯感染症が新たな地域に広がったり、高齢者の熱中症による死亡率が上昇したりするなど、人々の健康にも影響を与えています。気候変動に関連する健康リスクは、女性、子ども、少数民族、貧困層、移民や避難民、高齢者、そして基礎疾患を持つ人々などの社会的に脆弱で不利な立場にある人々に不均衡に重くのしかかっています。アクサは長年にわたり、低・中間所得層のお客さまに特化した保険商品を開発してきました。最近、このサービスを「AXA EssentiALL」と改名しました。このことは、世界中のすべてのお客さまの基本的ニーズをカバーするという私たちの使命の普遍性を物語っています。

保険会社が将来のリスクに対応するために、十分な情報に基づいた意思決定を行うために、高度なデータ分析はどのように役立つでしょうか？

ナンシー・ビューレー：私たちは、個人、法人を問わず、お客さまから2つの優先事項を伺っています。一つ目が、公正な価格で保険を利用したいということ。二つ目が、保険会社に対して、単に保険金を支払うだけでなく、リスクを未然に予防するための個別サポートに期待しているということです。このような個別化対応の実現には、データへのアクセスが不可欠です。

データと分析は私たちの企業文化の一部です。それらを利用することで、戦略的意思決定のためのシナリオを開発し、将来のリスクを予測し、変化する状況や早期警戒指標に基づいてモニタリングし、必要なときには迅速に方向転換することが可能になります。このようにして、私たちは持続可能で長期的な収益性を達成する包括的なポートフォリオを構築しているのです。

私たちは常に、先進的で偏りのない分析ツールを開発し、お客さまに、より個別化され効率的で予測可能な保険ソリューションを提供しています。例えば、アクサは最近、生成型人工知能を専門とするフランスのスタートアップであるMistral AI社と提携しました。これは、保険のバリューチェーン全体に対するAIアプリケーション開発の画期的な一歩となりました。




保険会社の役割

↓

専門家たちの91%だけでなく、一般市民の72%も、新たに発生するリスクから身を守るために、保険会社の役割が今後重要になると考えています。

保険会社が役割を果たすためには、不測の事態に際して人々との信頼関係を築くために、透明性を確保し、効果的なコミュニケーションを行う必要があります。保険会社は、新たなリスクを定量化し評価するための高度なモデルやデータ分析の基盤を構築しており、その専門知識を活かして個人、企業、公共部門が新たなリスクに対する耐性を高めることを支援することができます。また、保険会社は機関投資家としても重要です。欧州だけでも約9兆5000億ユーロの運用資産¹を保有しており、持続可能な経済への移行促進を支援するのに適した長期的なビジネスモデルを有しています。

1.出典：Insurance Europe



本調査では、アクサの法人顧客およびビジネスパートナーを対象に、将来のリスクに関して保険会社に期待することを選択してもらいました。その結果、上位3位は、革新的なソリューションのためのリスク・マネジメントおよびリスク移転（74%）、リスクに関する知識の共有と教育（71%）、予防と回復力構築支援（63%）となりました。

アクサは、新たなリスクから人々と財産を守ることに引き続き取り組むと同時に、すべてのステークホルダーと協力しながら、必要に応じて連帯行動を呼びかけ、将来世代のために時間やリソースを投下し、お客さまやパートナーにアクサならではの価値を提供していきます。

調査概要

「アクサフューチャーリスクレポート 2024」は、アクサから委託を受けたイプソス社が、専門家と一般市民の2つのグループに対して実施したオンライン・アンケート調査です。



専門家

2024年5月14日から6月27日までの期間、50カ国の3,012人の専門家を対象に調査を実施。

回答者の平均年齢 45歳。
男性 55%、女性 44%、自由記述 1%。

専門家はほとんどが保険業界の出身者で、87%は、アクサのディストリビューション/マーケティングおよびリスク・マネジメントなどでの勤務経験者。

残りの13%は、アクサのプロフェッショナルネットワークから選出され、主に金融サービス業界や大手企業での勤務者。

世界的な分布は以下の通り。

- **ヨーロッパ**：1,354人
(上位国：フランス - 530人、英国 - 222人、ベルギー - 124人)
- **アジア太平洋地域**：867人
(上位国：インドネシア - 345人、日本 - 135人、タイ - 95人)
- **南北アメリカ**：749人
(上位国：コロンビア - 399人、メキシコ - 161人、米国 - 137人)
- **アフリカ**：35人

一般市民

2024年5月14日から6月15日までの期間、15カ国の19,003人の一般会員を対象に調査を実施。

回答者は、年齢、性別、職業を代表する18歳以上のサンプルから抽出され、地域と市場規模に基づいて国を選定。

米国では5,000人、オーストラリア、ベルギー、中国、フランス、ドイツ、香港、イタリア、日本、メキシコ、モロッコ、ナイジェリア、スペイン、スイス、英国ではそれぞれ1,000人を対象に調査を実施。

調査結果は、世界および地域別の結果を算出するために加重平均している。

リスク25項目

調査回答者に5つのカテゴリーに分けたリスク25項目を提示し、上位5つを選択するよう依頼した。トップには5ポイント、2位には4ポイント、以下同としてランク付けを行った。

健康と医療：慢性疾患、有害物質への長期暴露、パンデミックと感染症、健康慣行の変化や新たな職業病に関連するリスク、医療の進歩と革新に関連するリスク。

環境・エネルギー：気候変動、エネルギーリスク、公害、宇宙・惑星リスク、天然資源・生物多様性リスク。

テクノロジーとデータ：サイバーセキュリティリスク、破壊的テクノロジー、テクノロジーの利用に関連する倫理的リスク、スマートシステムや自律システムに関連するリスク、AIやビッグデータに関連するリスク。

経済・金融・事業環境：金融安定リスク、マクロ経済リスク、金融・財政政策リスク、将来の労働に関連するリスク、ハイテク関連の経済リスク。

社会、政治、規制：地政学的不安定性、新たな安全保障上の脅威とテロリズム、人口動態の変化に関連するリスク、規制や訴訟の進化に関連するリスク、社会的緊張と社会運動。



著作権Eric Avenel - David Atlan - Chris Barber - Éric Bobrie - Mikael Lafontan - Seignette
Lafontan - Joe Pak - Getty - MidJourney.無断複写・転載を禁じます。創作 :bear**ideas**